

苦小牧市防災まちづくり基本構想

【参考資料】

令和6年（2024年）3月

苦小牧市

目 次

1. 市民アンケート結果	1
1.1 アンケート調査概要	1
1.2 アンケート回答者属性	1
1.3 大規模災害時に必要な対応	1
1.4 災害時活動拠点の整備位置	2
1.5 災害時活動拠点の平常時利用ニーズ.....	2
1.6 避難施設に求める機能・対応	3
1.7 防災対策	3
1.8 苫小牧市の防災・減災対策の評価.....	4
1.9 防災拠点等の整備に関する主な自由意見.....	4
2. 住民懇話会結果	5
2.1 第1回住民懇話会結果	5
2.2 第2回住民懇話会結果	19
2.3 第3回住民懇話会結果	34
2.4 第4回住民懇話会結果	44
3. パブリックコメント	52
3.1 実施期間	52
3.2 実施内容	52
3.3 実施結果	52
3.4 意見に対する対応	52
4. 関連計画	53
4.1 苫小牧都市再生コンセプトプラン（令和3年3月策定）	53
4.2 苫小牧駅周辺ビジョン（令和5年3月策定）	53
4.3 苫小牧市公共施設等総合管理計画（令和5年3月改訂）	54
4.4 苫小牧市スポーツ施設整備計画（令和3年3月策定）	54

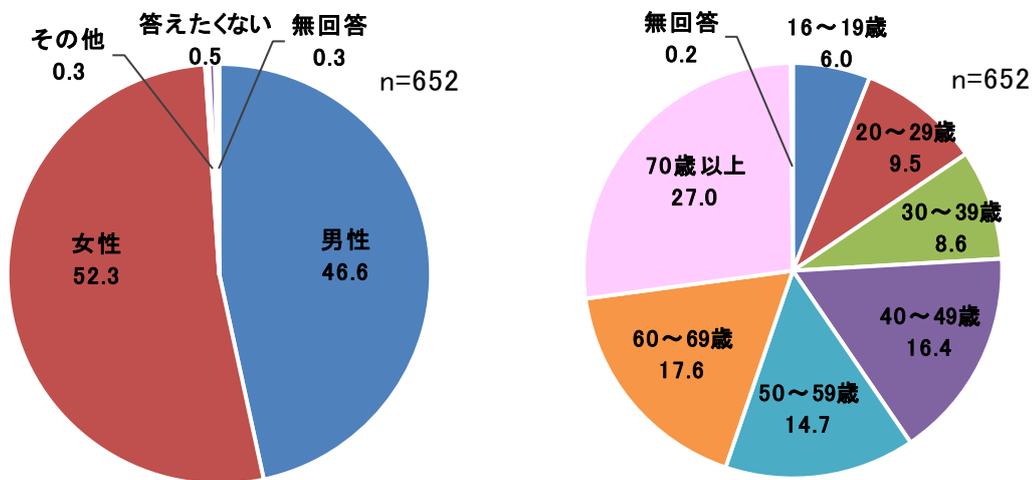
1. 市民アンケート結果

1.1 アンケート調査概要

調査対象：苫小牧市に居住している16歳以上の2,000人
調査期間：令和5年7月24日～8月20日
調査方法：郵送配布、郵送回収又はWeb回答
回収数：654票（回収率32.7%）※うち無効票2票

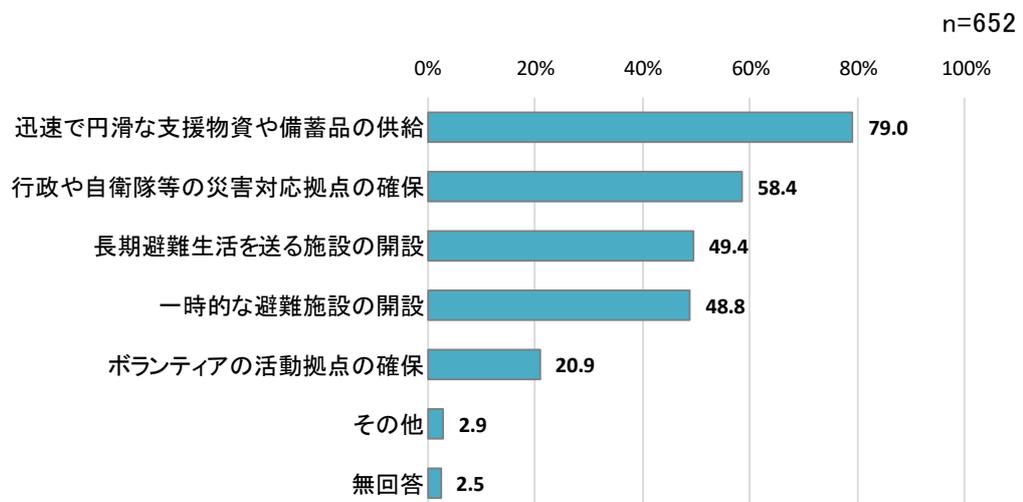
1.2 アンケート回答者属性

- ・回答者は男性46.6%、女性52.3%と、男女それぞれの意見をほぼ同じ割合である。
- ・10～20歳台は15.5%、50歳以上は59.3%であり、年代別人口構成比(R2国調)の14.7%、55.6%と概ね近い割合となった。



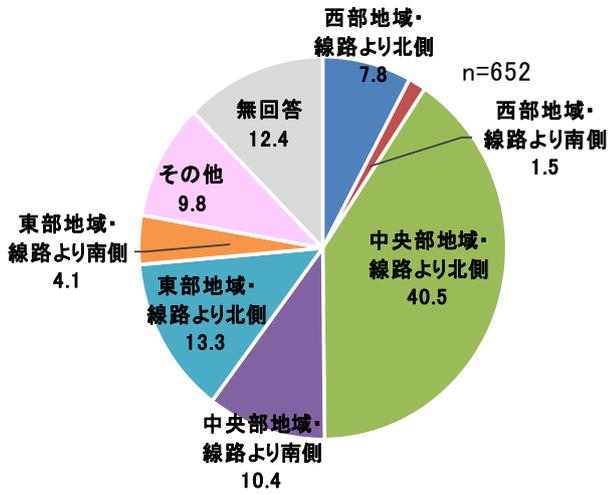
1.3 大規模災害時に必要な対応

- ・大規模災害発生時、市民の暮らしを守るためには、「支援物資や備蓄品を素早く市民に供給する体制」の整備が求められている。



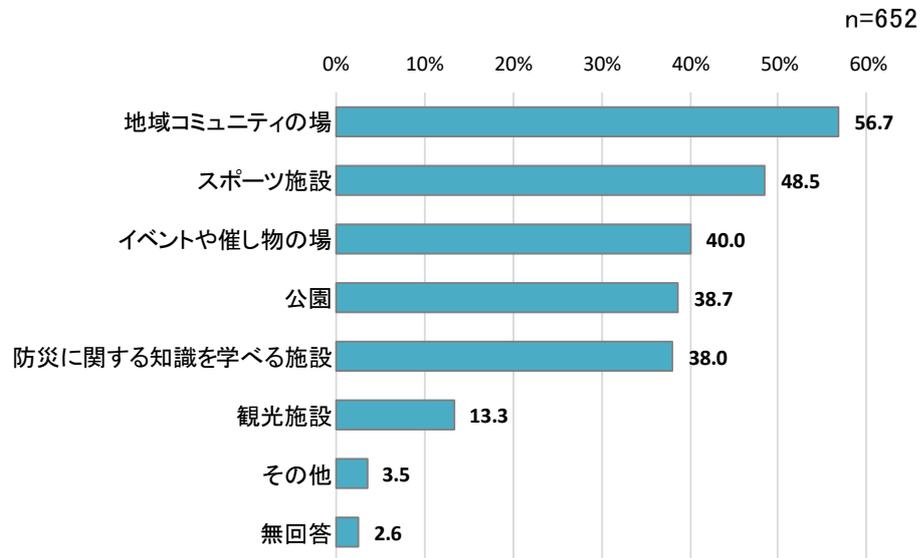
1.4 災害時活動拠点の整備位置

- ・望ましい大規模災害時の活動拠点位置は、「中央部地域の北側（線路より北側）」のエリアが最もニーズが高かった。



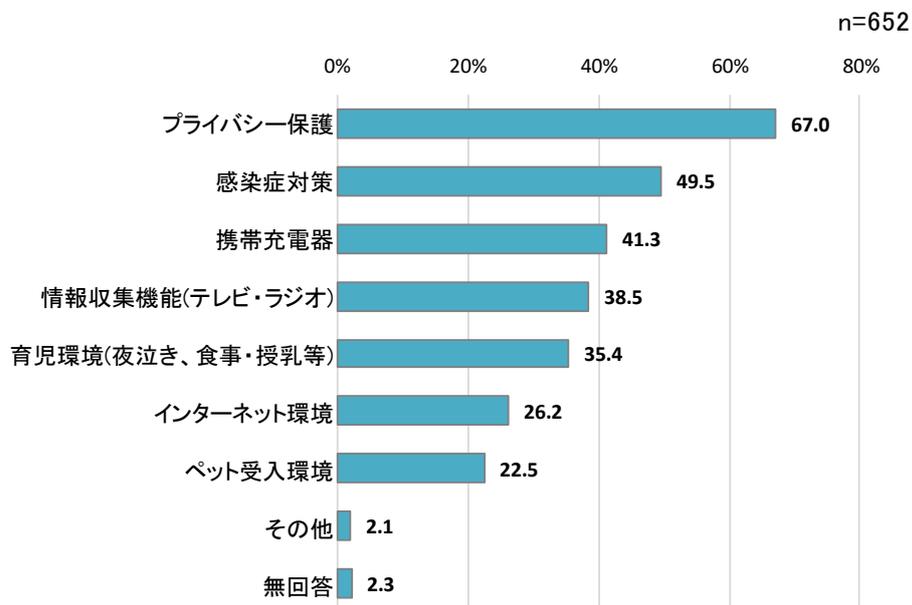
1.5 災害時活動拠点の平常時利用ニーズ

- ・災害時の活動拠点を整備する場合、日常的な利用方法として「地域コミュニティの場」や「スポーツ施設」のニーズが高かった。
- ・回答数の多い60歳以上の影響を受け、「地域コミュニティの場」のニーズが最も高くなった。



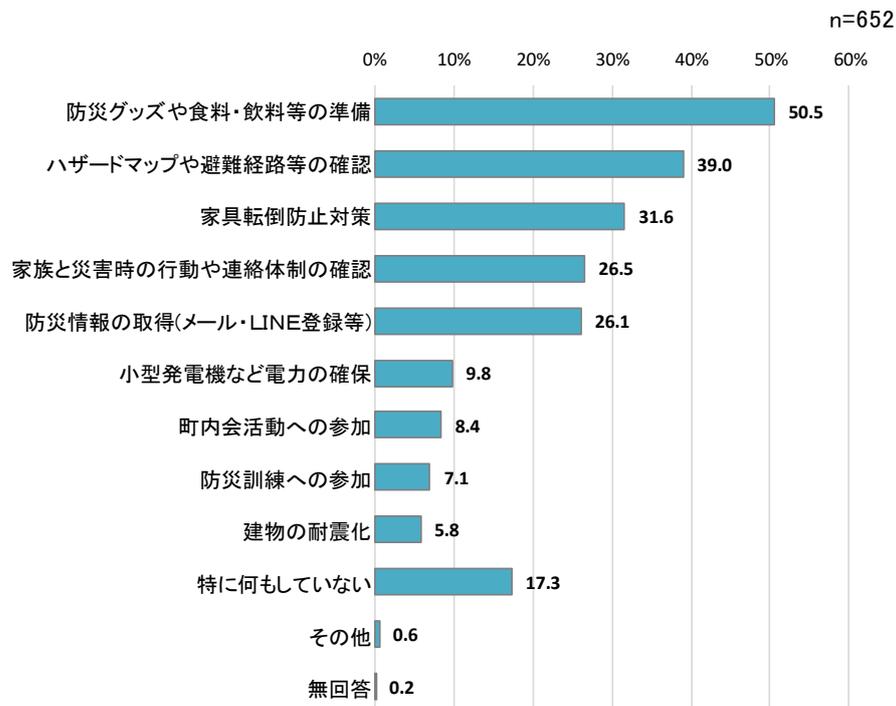
1.6 避難施設に求める機能・対応

- ・避難施設には、「プライバシー保護」への対応を求める意見が最も多かった。
- ・新型コロナウイルス感染症を受け、「感染症対策」を求める意見が2番目に多かった。
- ・「プライバシー保護」「感染症対策」ともに、収容人数に応じて一定程度の施設規模が必要となる。



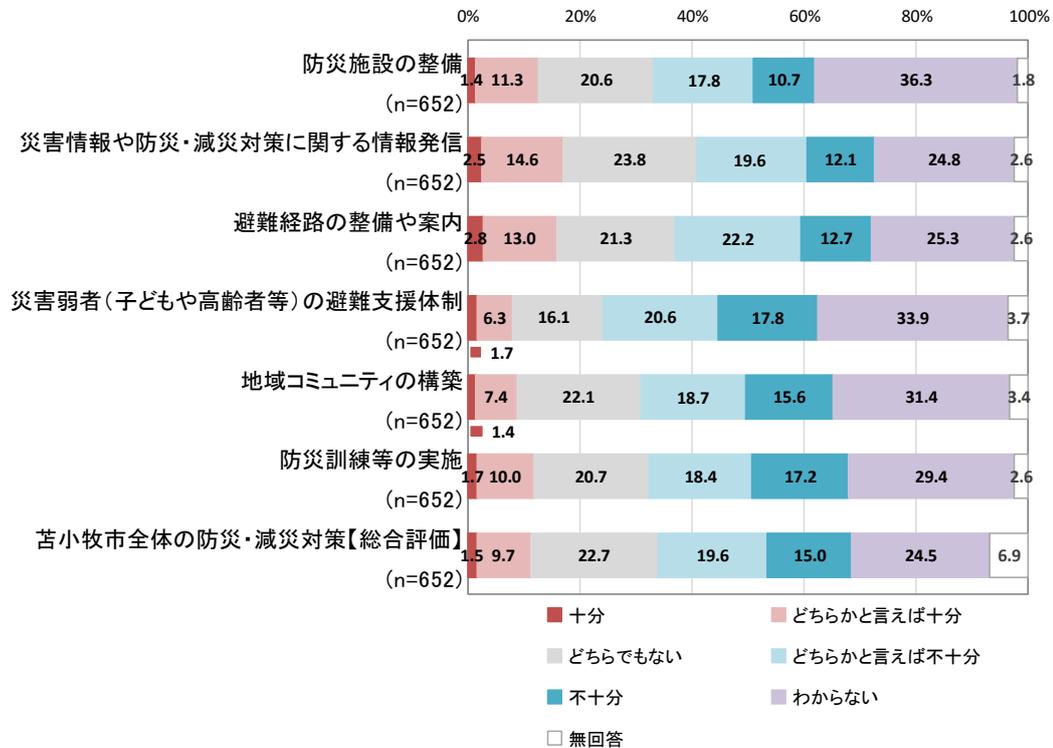
1.7 防災対策

- ・「防災グッズや食料・飲料品等の準備」が50.5%と約半数の人が行っている。
- ・防災対策を「特に何もしていない」と回答した人は、17.3%であった。



1.8 苫小牧市の防災・減災対策の評価

- ・本市の防災対策については、各項目で「わからない」が最も多かった。市民の避難行動に関係する項目は周知を強化する必要がある。
- ・不十分(不十分+どちらかと言えば不十分)の割合が十分(十分+どちらかと言えば十分)よりも高く、引き続き防災対策の推進が求められている。



1.9 防災拠点等の整備に関する主な自由意見

- ・町内会館に物資を配置できる所を設けてほしい。
- ・駅前再開発として防災の拠点地としてほしい。
- ・本部が苫小牧中央 IC 付近であれば活動しやすいかもしれないが、横長の市であるので苫小牧西 IC、苫小牧東 IC 付近にも支部があれば支援がスムーズにいき渡るかもしれない。
- ・細長い街並なので、支援物資保管拠点の設置や輸送路の確保が重要。
- ・避難できる高い建物がほしい。
- ・津波がきた際に住民が集中しそれだけのキャパがあるのか不安である。大規模な避難場所があると安心して暮らすことができる。

2. 住民懇話会結果

2.1 第1回住民懇話会結果

(1) 実施概要

苫小牧市防災まちづくり基本構想のとりまとめにあたって、新たな防災拠点等に必要な機能や仕組みを抽出する上で、第1回住民懇話会では、地域が抱える災害発生時の課題や平成30年北海道胆振東部地震時の課題や教訓をワークショップ形式で議論した。

(2) 第1回住民懇話会の目的

- ・地域が抱えるリスクの把握・共有
- ・北海道胆振東部地震における教訓の把握・共有

(3) 日時・場所

地域住民を対象に住民懇話会を開催するため、比較的参加しやすい平日の夕方に実施した。

日時：令和5年8月3日 18時～20時

場所：苫小牧市役所 2階 21 会議室

(4) 参加者

苫小牧市全域における新たな防災拠点に係る意見を収集するため、平常時より防災活動に従事している組織を対象に実施した。

防災ボランティア、自主防災組織、消防団 合計 29 名

※1 班あたり 5,6 人でワークショップを実施

(5) プログラム

No	時間	実施内容
1	18時30分	■開会挨拶
2	18時35分	■情報提供 苫小牧市において想定される被害
3	18時45分	■情報提供 北海道胆振東部地震における課題・教訓
4	18時55分	■ワークショップ ①地震時、洪水時に自宅からの避難路 避難する際の課題 (例 避難所までの距離、避難した後の避難所の状況(寒さ対策や備蓄品の数量、スペース)) ②胆振東部地震の際にみなさんの体験や人から聞いた話等で防災の課題 ③地域が抱える防災上の課題(25分)
5	20時25分	■今後のスケジュール

(6) 実施状況



(7) 配布資料

地域住民が住民懇話会の開催趣旨、実施概要を理解して、事前準備を行った上で住民懇話会に参加できるよう事前配布用の資料も作成した。

配布した資料一覧及び資料の一部抜粋を示す。

資料区分	資料番号	資料名
事前配布	—	住民懇話会の開催概要
当日配布	資料 1	次第
	資料 2	第 1 回住民懇話会説明資料
	資料 3	樽前山火山災害ハザードマップ
	資料 4	苫小牧市マップ

苫小牧市防災まちづくり基本構想

住民懇話会の概要

1. 目的

苫小牧市は、北海道の太平洋側に位置し、巨大地震や津波の他、樽前山の噴火等、様々な大規模災害の懸念があることから、地域防災力の強化を図り、防災拠点の整備等を行う防災まちづくり構想を策定するにあたって、地域のみなさまにとってより良いまちづくりを実現することを目的に住民懇話会を開催する。

2. 日時・場所

令和5年7月下旬から8月上旬 18時30分～20時30分・苫小牧市役所2階会議室

3. 対象者

自主防災組織、防災ボランティア、消防団 約30名程度

4. 第1回住民懇話会のプログラム

- (1) 開会挨拶
- (2) 住民懇話会の位置づけ
- (3) 胆振東部地震の教訓
- (4) 地域の現況と課題
※地域の課題を考えよう！
- (5) 今後の進め方
- (6) 閉会

5. 全体スケジュール（予定）

第1回懇話会（R5 7月下旬～8月上旬実施予定）
■協議事項
①懇話会の位置づけ
②胆振東部地震の課題と教訓
③地域の現況・課題（火山、洪水、土砂災害、地震・津波）
④今後の検討の進め方

第2回懇話会（R5 9月下旬実施予定）
■協議事項
①課題のとりまとめ結果
②基本理念の設定
③必要な機能の検討

第3回懇話会（R5 11月下旬）
■協議事項
①防災まちづくり基本構想（素案）

第4回懇話会（R6 1月下旬）
■協議事項
①ハザードマップの見方
②タイムラインとキキクル（危険度分布）の見方
③スケジュール

ワークショップでやること



■地域、まちの課題を出そう！！

- ・胆振東部地震の時は●●という課題があった／●●が大変（苦勞）した。
- ・このあたりの避難路が狭い
- ・このあたりは避難所が少ない
- ・このあたりは避難所までの遠い
- ・防災拠点（役場、警察・消防、自衛隊、ボランティアの拠点、物資輸送拠点、海岸・河川施設）の位置や機能等について、●●という課題がある。

■お願い
できれば事前に防災上の地域における課題や胆振東部地震の時の課題を整理してください。

苦小牧市防災まちづくり基本構想

日時：令和5年8月3日（木）
18時30分～20時30分
場所：苦小牧市役所2階会議室

第1回住民懇話会

次 第

1. 開会挨拶
2. 目的、全体の流れ
3. 胆振東部地震の課題と教訓
4. 地域の現況と課題
 - (1) 市の現状と課題
 - (2) 地域の課題を考えよう（ワークショップ）
5. 今後の進め方、住民懇話会の位置づけ
6. 閉会

配布資料

- | | |
|-----|----------------|
| 資料1 | 次第 |
| 資料2 | 第1回住民懇話会説明資料 |
| 資料3 | 樽前山噴火災害ハザードマップ |
| 資料4 | 苦小牧市マップ |

主要備蓄品

口食料や毛布等を指定避難所及び備蓄倉庫に分散備蓄している。

【食料・飲料水】



【資機材】



【生活必需品】

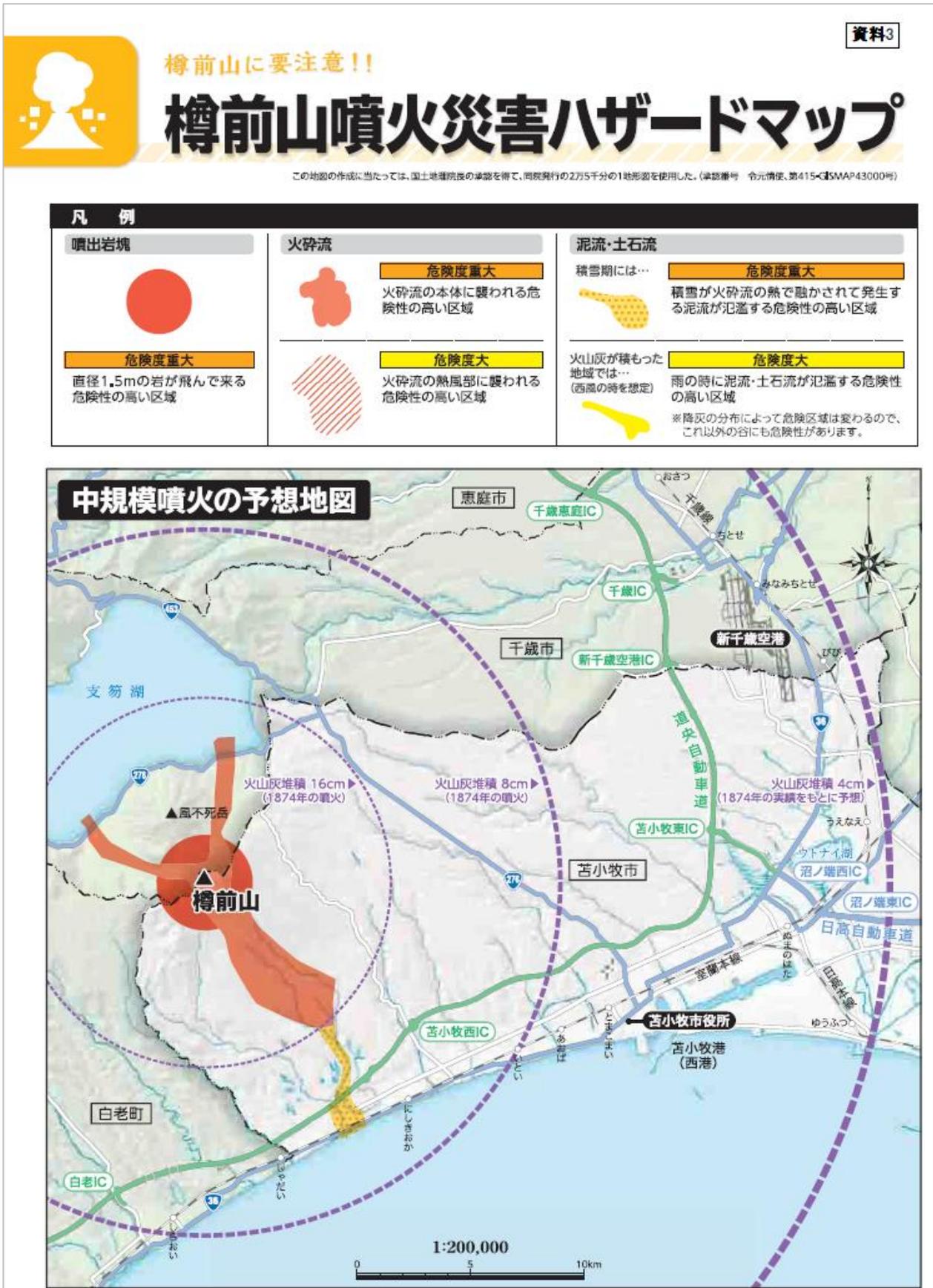


※ 備蓄品の一例です。数に限りがあります。詳細については、HPをご確認ください。

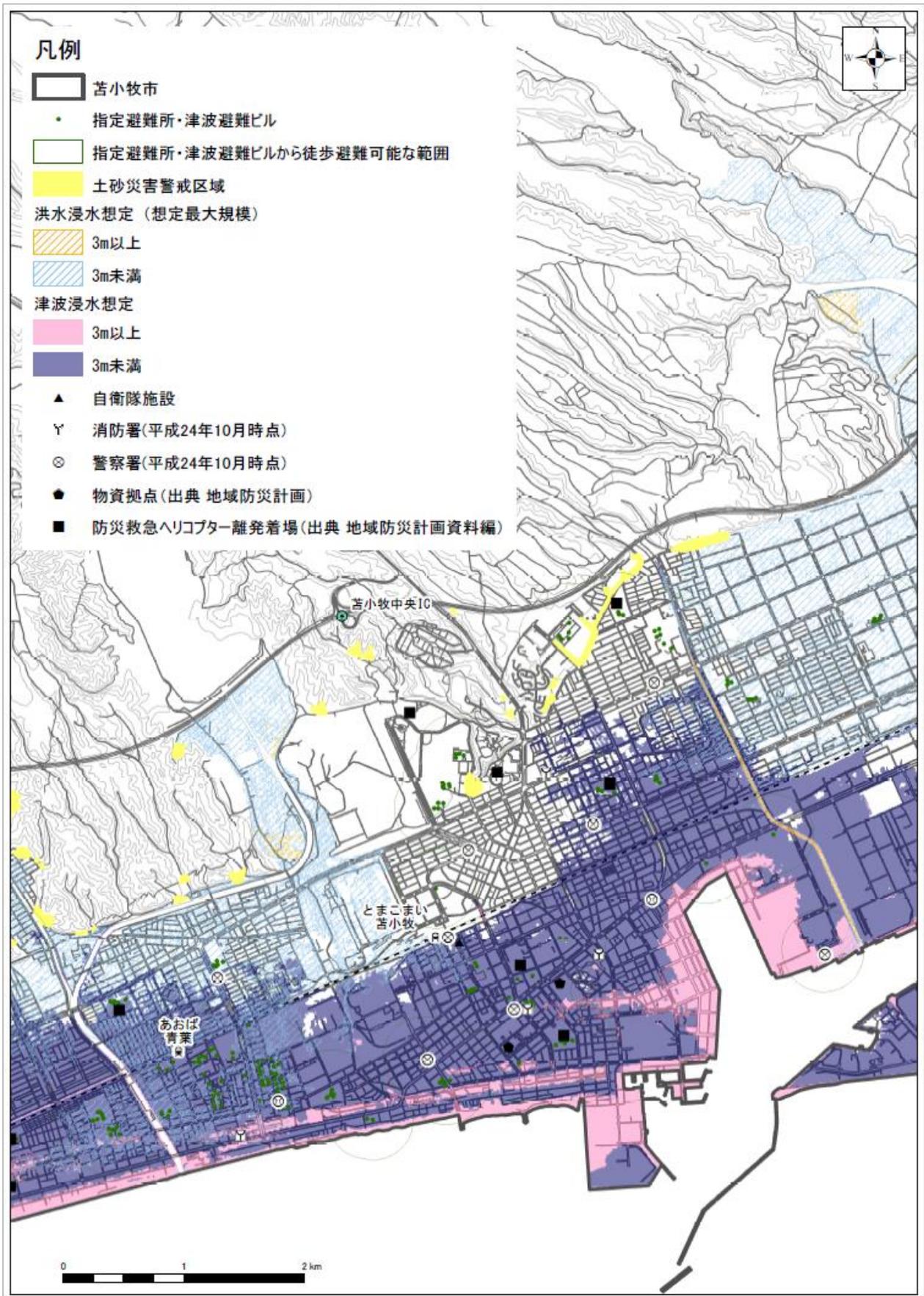
ワークショップ

- ①テーマについて、自分の意見を付箋に書く
 - ✓ 1枚に1メッセージ!
 - ✓ 時期や場所など、なるべく具体的に書こう!
 - ✓ 周りの人と相談しながらでもOK!
- ②書いた付箋をテーマが書かれた模造紙に貼る
- ③模造紙に出されたみんなの意見を確認する
 - ✓ 自分以外の人がどのような考えを持っているか確認しよう!

●樽前山火山災害ハザードマップ



● 苫小牧市マップ



(8) ワークショップにより抽出した主な地域住民の意見

ワークショップにより抽出した主な意見を避難、拠点、防災体制、要配慮者、備蓄、防災情報、ライフラインの7つの観点に区分して整理した。

① 避難に係る課題

- ・津波避難の三原則等を知らないために適切な避難行動をとれない人がいる。
- ・災害の特性を理解していないために適切な避難行動をとれない人がいる。
- ・南側の津波想定浸水域から北側に避難する際に踏み切りを渡る必要がある。
- ・東西に大通りが整備されているため、津波想定浸水域外へ避難できるか不安である。
- ・避難所が不足している。

② 拠点に係る課題

- ・避難所に必要な支援物資が届かなかったため、物資の運搬を管理する拠点が必要である。
- ・物資の運搬拠点は、東西への運搬距離も踏まえて中央IC付近に整備する必要がある。
- ・緊急消防援助隊の活動拠点が津波想定区域に立地している。
- ・地元消防団の詰め所が津波想定区域に立地している。

③ 防災体制に係る課題

- ・自治体間の連携がとれているか課題がある。
- ・応援に入ってくる行政職員が円滑に動けるか不安がある。
- ・宿泊施設等の確保にあたってはホテルやフェリー等の地元企業との体制構築が必要である。

④ 要配慮者に係る課題

- ・要配慮者を支援する組織が少ないため、組織の育成が必要である。
- ・要配慮者と地域とのつながりを確保するための取り組みが必要である。

⑤ 備蓄に係る課題

- ・地域の実情（子育て世帯が多い、高齢者が多い）に応じた備蓄品を準備する必要がある。
- ・胆振東部地震は9月であったが、冬季の発生を想定すると寒さ対策の備蓄が必要である。
- ・近くに避難所がないエリアの避難先によっては備蓄品が不足することが懸念される。

⑥ 防災情報に係る課題

- ・停電や断水に係るデマ情報が多かった。
- ・防災情報無線が聞こえにくかった。防災情報無線が聞こえないエリアがあると考えられる。
- ・在宅避難者と避難所避難者に防災情報の格差問題が生じる。

⑦ ライフラインに係る課題

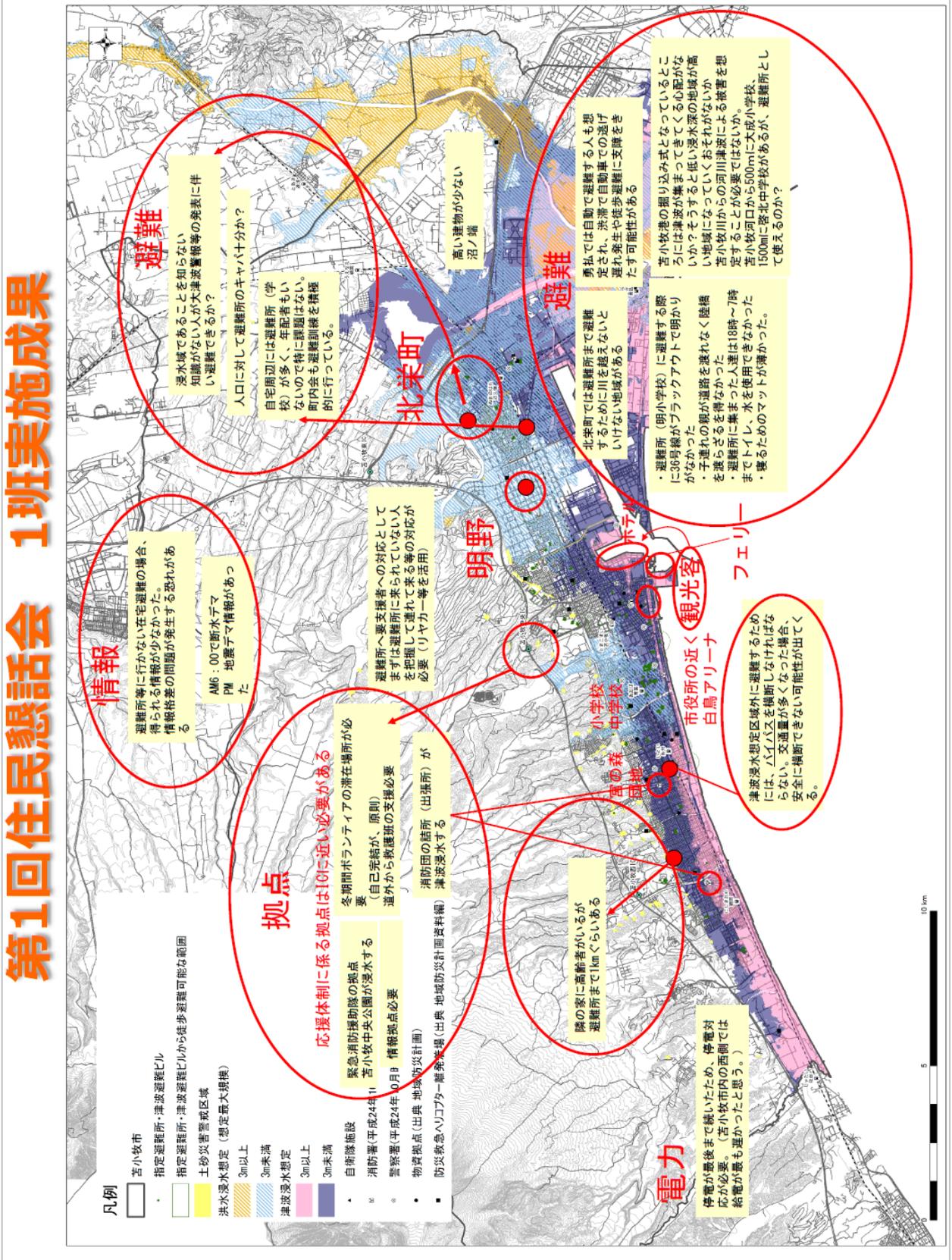
- ・停電の復旧順序が異なっていたため、順序を踏まえた計画づくりが必要である。
- ・避難先に携帯電話等を充電するための充電機能が必要である。
- ・災害対応を担う資機材の動力源となる燃料が必要である。

(9) 巻末

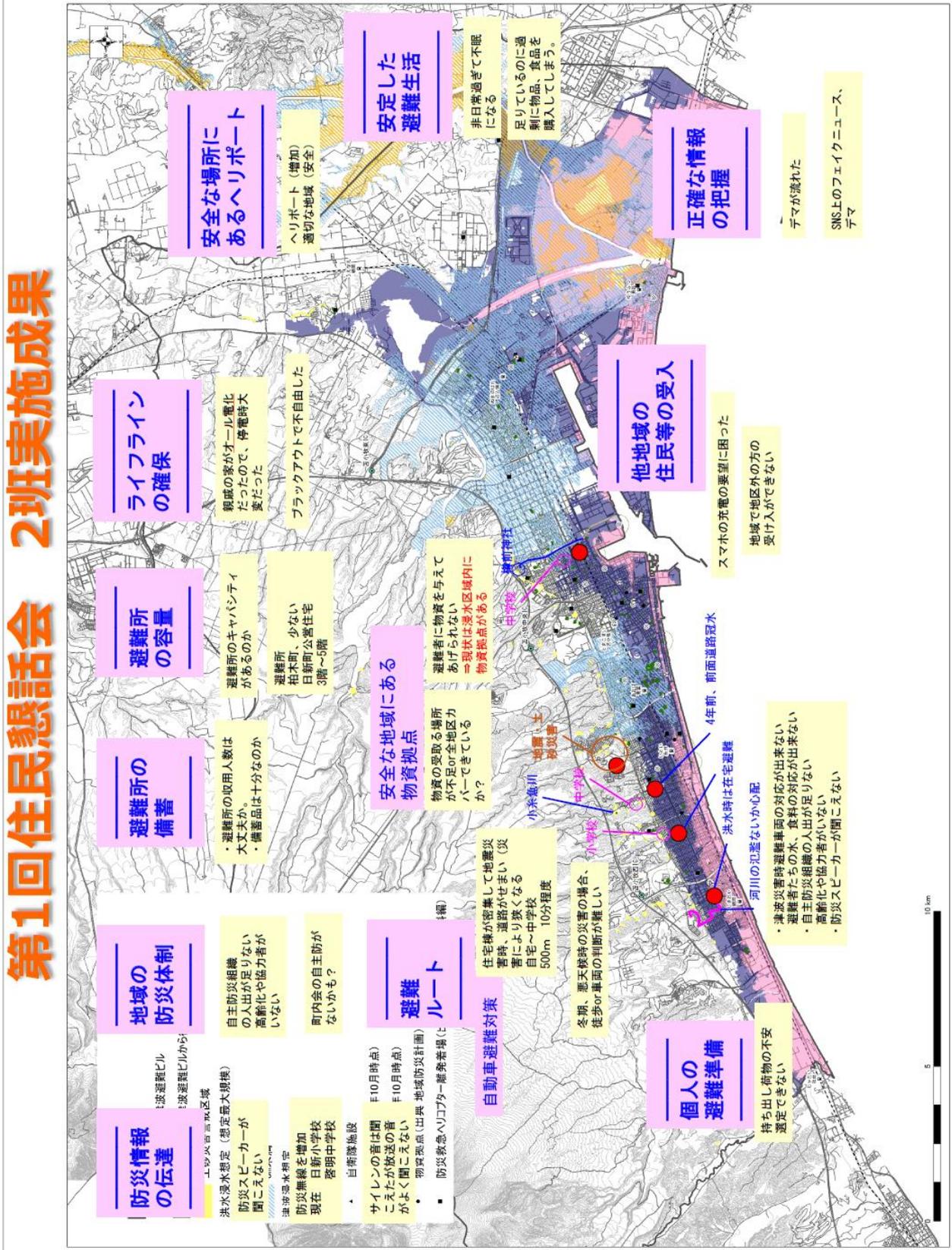
巻末資料として、ワークショップの際に各班が作成したワークシートを示す。

●1班

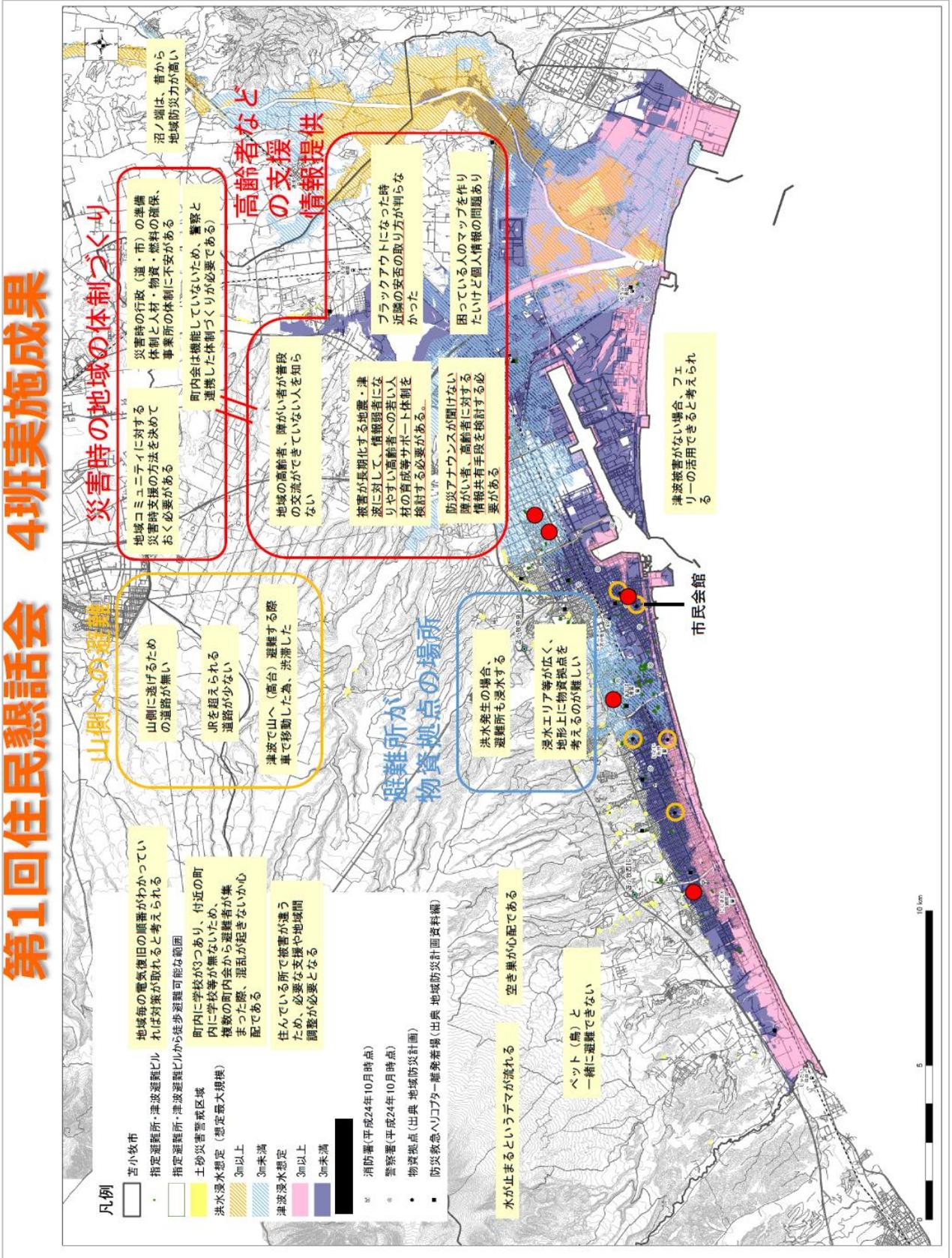
第1回住民懇話会 1班実施成果



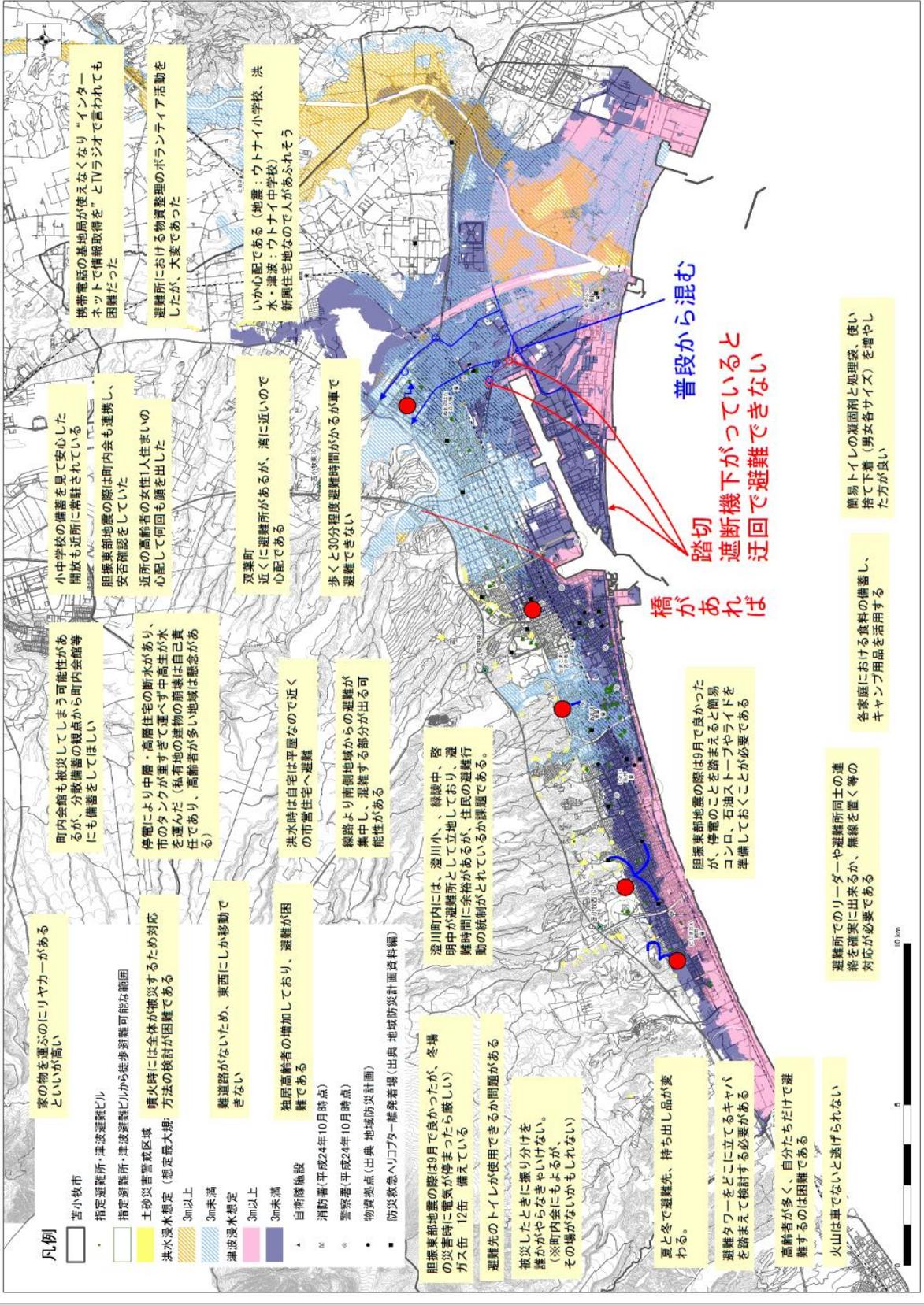
第1回住民懇話会 2班実施成果



第1回住民懇話会 4班実施成果



第1回住民懇話会 6班実施成果



2.2 第2回住民懇話会結果

(1) 実施概要

苫小牧市防災まちづくり基本構想のとりまとめにあたって、新たな防災拠点等に必要な機能や仕組みを抽出する上で、第2回住民懇話会では、第1回住民懇話会の実施結果を踏まえ地域が抱える課題を拠点によりどのように解決するのか方向性をワークショップ形式で議論した。

(2) 第2回住民懇話会の目的

- ・ 拠点に必要な機能、仕組みの把握・共有
- ・ 苫小牧市が取り組むべき方向性の把握・共有

(3) 日時・場所

地域住民を対象に住民懇話会を開催するため、比較的参加しやすい平日の夕方に実施した。

日時：令和5年10月10日18時30分～20時30分

場所：苫小牧市役所2階21会議室

(4) 参加者

苫小牧市全域における新たな防災拠点に係る意見を収集するため、平常時より防災活動に従事している組織を対象に実施した。

防災ボランティア、自主防災組織、消防団 合計30名

※1班あたり5,6人でワークショップを実施

(5) プログラム

No	時間	実施内容
1	18時30分	■情報提供 住民懇話会の目的、本日の流れ
2	18時35分	■情報提供 課題とりまとめ結果の共有
3	18時45分	■ワークショップ ①災害時に必要な拠点機能等 ②平常時に有効活用される機能
4	20時25分	■今後の進め方

(6) 実施状況



(7) 配布資料

地域住民が住民懇話会の開催趣旨、実施概要を理解して、事前準備を行った上で住民懇話会に参加できるよう事前配布用の資料も作成した。

配布した資料一覧及び資料の一部抜粋を示す。

資料区分	資料番号	資料名
事前配布	—	住民懇話会の開催概要
当日配布	資料 1	次第
	資料 2	第 2 回住民懇話会説明資料
	資料 3	苫小牧市マップ
	参考資料 1-1	第 1 回住民懇話会実施結果
	参考資料 1-2	第 1 回住民懇話会意見と考えられる対応等
	参考資料 2	アンケート結果概要

苫小牧市防災まちづくり基本構想

住民懇話会の概要

1. 目的

苫小牧市は、北海道の太平洋側に位置し、巨大地震や津波の他、樽前山の噴火等、様々な大規模災害の懸念があることから、地域防災力の強化を図り、防災拠点の整備等を行う防災まちづくり構想を策定するにあたって、地域のみなさまにとってより良いまちづくりを実現することを目的に住民懇話会を開催する。

2. 日時・場所

令和5年10月上旬18時30分～20時30分・苫小牧市役所2階会議室

3. 対象者

自主防災組織、防災ボランティア、消防団 約30名程度

4. 第2回住民懇話会のプログラム

- (1) 開会挨拶
 - (2) 課題のとりまとめ結果の共有
 - (3) 必要な機能の検討
 - (4) 基本理念の設定
- ※ワークショップ形式で実施
- (5) 今後の進め方
 - (6) 閉会

5. 全体スケジュール（予定）

第1回懇話会(R5 8月3日)

■協議事項

- ①目的、全体の流れ
- ②胆振東部地震の課題と教訓
- ③地域の現況・課題(火山、洪水、土砂災害、地震・津波)
- ④今後の検討の進め方

第2回懇話会R5 10月上旬実施予定)

■協議事項

- ①課題のとりまとめ結果
- ②必要な機能の検討
- ③基本理念の設定

第3回懇話会(R5 11月下旬)

■協議事項

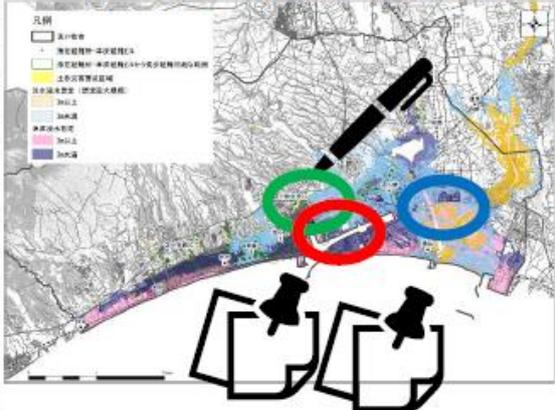
- ①防災まちづくり基本構想(素案)

第4回懇話会(R6 1月下旬)

■協議事項

- ①防災まちづくり基本構想(最終確認)
- ②ハザードマップの見方
- ③タイムラインとキキクル(危険度分布)の見方
- ④スケジュール

ワークショップでやること



■地域に必要な機能に関する意見を出そう！！

- ・第1回住民懇話会の結果（地域の課題）を踏まえて、拠点に必要な機能、拠点の位置を以下の観点から考えよう。
- ・災害時必要な拠点機能（応援体制（救援、救助、職員、ボランティア等）の受入、食料等に係る救援物資の受入、被災者を受け入れる避難所、学校再開 等）
- ・災害時だけでなく平常時に有効活用される機能（文化交流、スポーツ推進、普及啓発等）

■まちづくりの基本理念を考えよう！！

地域に必要な機能と市のまちづくりの考え方を参考に基本理念を考える。

苫小牧市防災まちづくり基本構想

日時：令和5年10月10日（火）
18時30分～20時30分
場所：苫小牧市役所2階21会議室

第2回住民懇話会

次 第

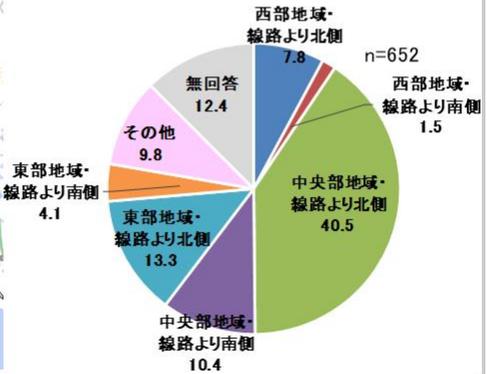
1. 開会挨拶
2. 目的、本日の流れ
3. 課題とりまとめ結果の共有
 - (1) 第1回住民懇話会の実施結果
 - (2) アンケート結果
4. 取り組むべき方向性の検討（ワークショップ）
 - (1) 災害時に必要な拠点機能等
 - (2) 平常時に有効活用される機能
5. 今後の進め方
6. 閉会

配布資料

資料1	次第
資料2	第2回住民懇話会説明資料
資料3	苫小牧市マップ
参考資料1-1	第1回住民懇話会実施結果
参考資料1-2	第1回住民懇話会意見と考えられる対応等
参考資料2	アンケート結果概要

ボランティアなどの活動拠点や支援物資を格納・供給する施設の整備エリア

- 「中央部地域・北側」が最も多く、自分の居住地に近いエリアへの整備ニーズも高かった。
- 苫小牧市は東西に長く、中央・東・西に分散配置を求める意見もあった。



⇒日常的な利用も考えた場合は、どのような場所に整備するのがよいでしょうか？

ワークショップ

全市を対象とした拠点に求める機能や仕組み等を検討しよう！



“防災拠点の課題”に限定しないで第1回住民懇話会で整理した意見がどういったら解決できそうか考えよう！

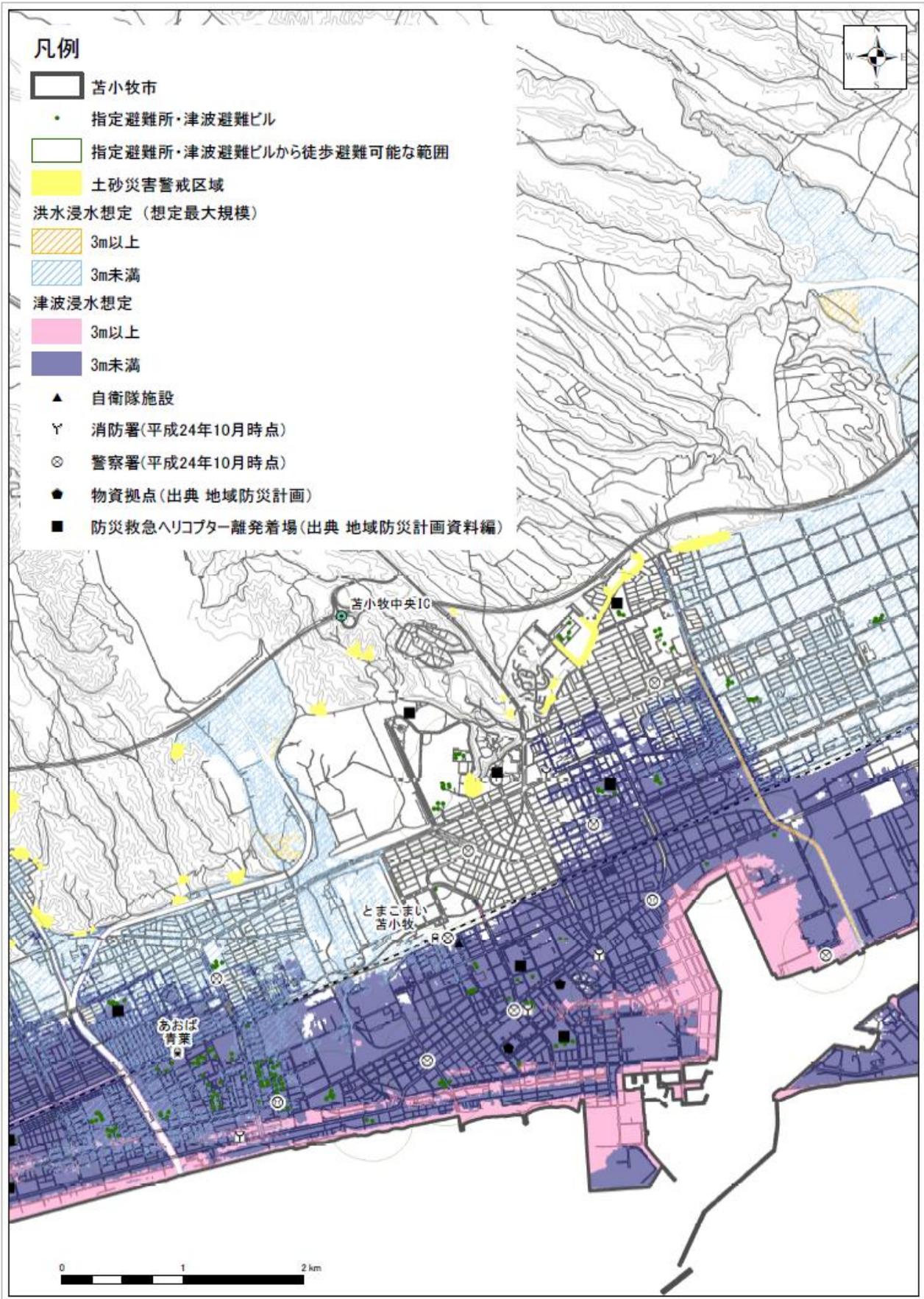
■防災情報の掲示機能



行政が集約した情報をデジタルサイネージに掲示
市のHPと連動 等

「防災情報の課題」
多くの人が集まる全市を対象とした拠点で正確な情報を把握している人が増えたら、デマ情報の課題は減りそうだ！

● 苫小牧市マップ



●第1回住民懇話会実施結果



●第1回住民懇話会意見と考えられる対応等

吉小牧市防災まちづくり基本構想 第1回住民懇話会意見と考えられる対応等					参考資料1-2
No.	班名	詳細項目	意見内容	考えられる対応	拠点において想定される必要な機能を考えるアイデア
1	1班	地域の防災体制	浸水域であることを知らない	ハザードマップ等を活用した説明会や防災訓練等により普及啓発を行う	・津波学習ができる展示（ハザードマップ等の展示） ・AR/VRの体験コーナー
2	2班	避難行動	知識がない人が大津波警報等の発表に伴い避難できるか？	ハザードマップ等を活用した説明会や防災訓練等で防災について周知啓発を行う	・津波学習ができる展示（ハザードマップ等の展示） ・AR/VRの体験コーナー
3	3班	避難所の容量	人口に対して避難所のキャパ十分か？	津波避難ビルの協定締結や新規避難所の整備を検討する	・避難所としての機能 ・避難場所としての機能 ・広域避難の可能性の検討
4	4班	避難所の容量	吉小牧港の掘り込み式となっているところには津波が集まってきてくる心配がないか？ そうすると低い浸水深の地域が高い地域になっていくおそれがないか 吉小牧川からの河川津波による被害を想定することが必要ではないか 吉小牧河口から500mに大成小学校、1500mに啓北中学校があるが、避難所として使えるのか？	津波シミュレーションは、河川遡上も踏まえた結果となっている原則、津波浸水域外への避難となる	・津波学習ができる展示（ハザードマップ等の展示） ・AR/VRの体験コーナー
5	5班	避難所の容量	沼ノ端には高い建物が少ない	原則、津波浸水域外への避難となるため、避難開始時間を早める等地域の特徴を踏まえた対策を進める	避難所機能
6	6班	避難所の容量	自宅周辺には避難所（学校）が多く、年配者もいないので特に課題はない	定期的に周辺環境を確認し、町内会等で要配慮者がいないか確認する	ユニバーサルデザインへの配慮
7	7班	避難経路	北栄町では避難所まで避難するために川を越えないといけない地域がある	原則、津波浸水域外への避難となるため、避難開始時間を早める等地域の特徴を踏まえた対策を進める	避難所機能
8	8班	避難経路	勇払では自動車避難する人も想定され、渋滞による逃げ遅れ発生や徒歩避難に支障をきたす可能性がある	原則、津波浸水域外への避難となるため、避難開始時間を早める等地域の特徴を踏まえた対策を進める	避難所機能
9	9班	地域の防災体制	町内会も避難訓練を積極的に行っている	継続的な避難訓練を実施する	訓練の充実を図る機能（農機体験）
10	10班	要配慮者	隣の家に高齢者がいるが避難所まで1kmくらいある	要配慮者名簿の作成、対応できる人・資機材の整理、訓練による確認を行う	ユニバーサルデザインへの配慮
11	11班	要配慮者	避難所へ要支援者への対応としては避難所に来られていない人を把握して連れて来る等の対応が必要（リヤカー等を活用）	要配慮者名簿の作成、対応できる人・資機材の整理、訓練による確認を行う	・ユニバーサルデザインへの配慮 ・資機材の備蓄スペース
12	12班	要配慮者	子連れの親が道路を渡れなく陸橋を渡らざるを得なかった	説明会や防災訓練等により原則徒歩避難であること等の普及啓発を行う	ユニバーサルデザインへの配慮
13	13班	ライフラインの確保	避難所に集まった人達は18時～7時までトイレ、水を使用できなかった	個人備蓄を啓発するとともに、避難所におけるトイレ対策について推進する	備蓄スペース
14	14班	避難経路	避難所（明小学校）に避難する際に36号線がブラックアウトで明かりがなかった	安全な避難経路を検討する	避難支障物等の影響を説明できる防災教育・展示
15	15班	ライフラインの確保	停電が最後まで続いたため、停電対応が必要（吉小牧市内の西側では給電が最も遅かったと思う）	個人備蓄を啓発するとともに、避難所における停電対策について推進する	・備蓄スペース ・発電機能
16	16班	備蓄	寝るためのマットが薄かった	行政で準備できない必要な備蓄は町内会や地域、個人で準備する等地域での対応を行う	個人備蓄の重要性等を展示する意識啓発機能
17	17班	防災拠点	応援体制に係る拠点はICに近い必要がある	応援体制に係る拠点はICや緊急交通路の沿線等外部からのアクセス性を踏まえて整備する	応援者のための会議スペース
18	18班	防災拠点	消防団の詰所（出張所）が津波浸水する	拠点が浸水した場合の代替場所を計画する	消防・警察・自衛隊等の活動スペース

●アンケート結果概要

1. アンケート調査概要

調査対象：苫小牧市に居住している16歳以上の2,000人

※一部15歳への配布があった

調査期間：令和5年7月24日～8月20日

調査方法：郵送配布、郵送回収またはWeb回答

回収数：654票（回収率32.7%）※うち無効票2票

調査内容：① 個人属性

② 防災意識について

③ 苫小牧市の防災対策について

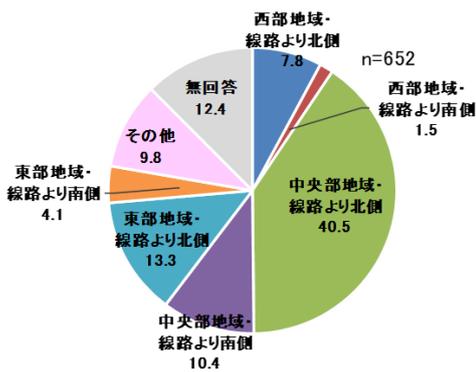
④ 自由意見

1

6. 災害時活動拠点の整備位置

問 大規模災害時には全国から人や物資の支援が必要となっており、ボランティアなどの活動拠点や支援物資を格納・供給したりする施設は、どのエリアにあるのが望ましいと思いますか。

- 望ましい大規模災害時の活動拠点位置は、「中央部地域の北側（線路より北側）」のエリアが最もニーズが高かった。



その他の回答(抜粋)

各エリアに均等配置、苫小牧市は横に長いので東西に分散、海に近く高齢者が住んでいるところ、IC付近の高所、津波の影響がない所・津波対策のある施設 など

15

(8) ワークショップにより抽出した主な地域住民の意見

ワークショップにより抽出した主な意見を避難、拠点、防災体制、要配慮者、備蓄、防災情報、ライフラインの7つの観点に区分して整理した。

① 避難の課題を解決するための機能・仕組み

- ・いのちを守ることが必要となるため、避難行動に係る防災教育機能（学習施設・訓練施設）
- ・土地勘のない観光客でも避難できるように、ランドマーク機能

② 拠点の課題を解決するための機能・仕組み

- ・自衛隊や消防等の駐車スペース等の滞留機能
- ・駅前の開発と併せて地域の賑わいを創出するため、苫小牧駅を中心とした拠点整備、仕組みづくり
- ・苫小牧中央 IC だけでなく東部・西部へのアクセス性も踏まえた拠点整備、仕組みづくり
- ・ボランティア等は、JR を利用してくる可能性もあるため、苫小牧駅を中心とした拠点整備、仕組みづくり
- ・地域の特性に応じた拠点機能の整備（東部→子育て世代への対応、西部→高齢者への対応）

③ 防災体制の課題を解決するための機能・仕組み

- ・防災拠点で先進的な取り組みや訓練等を行い、地域の拠点でも模倣できるような仕組みづくり
- ・必要な手当てを円滑に受けられるように拠点と医療機関の連携、連絡機能、仕組みづくり

④ 要配慮者の課題を解決するための機能・仕組み

- ・要配慮者と交流できる機能
- ・要配慮者の避難行動を支援できる機能（リヤカーの備蓄等）

⑤ 備蓄の課題を解決するための機能・仕組み

- ・安心して避難所生活が送れるように食堂・調理機能
- ・平時から備蓄品や数量を把握できるようにするため、備蓄品を活用した収納競争等ができる仕組み
- ・大型機械やその燃料等町内会では備蓄できない資機材の備蓄機能

⑥ 防災情報の課題を解決するための機能・仕組み

- ・情報を取りに行かなくても取得できる取り組みとしてバイクを活用した情報ボランティアの導入を踏まえた仕組みづくり
- ・各避難所にどの程度避難しているか拠点間の連絡ができる仕組みづくり

⑦ ライフラインの課題を解決するための機能・仕組み

- ・停電時でも利用可能な発電機能
- ・衛星電話等の拠点間の連絡に必要な機能

(9) 巻末

巻末資料として、ワークショップの際に各班が作成したワークシートを示す。

●1班

苦小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等				
視点	避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
初動時 発災直後～ 3日 応急対策時 4日目～ 1週間 復旧・復興時 1週間～	<p>避難所の容量が不安である、避難時間も含めて適切な避難所を整備することを検討してほしい。</p> <p>要望</p> <p>観光客にも分かりやすい場所になると土地勘のない人でも避難しやすくなるため、ランドマーク機能があると良い。(郡防団が支援する際の目印にもなる)</p> <p>拠点に避難するまでの誘導看板や足跡等を合わせて整備することで避難しやすくなる</p> <p>ボランティアの拠点機能として、雨・雪・寒さ・暑さをしのげる場所 救護に必要な機能</p>	<p>小さな拠点でどうするか 命を守ることを考える</p> <p>地域別に機能を変えて複数の拠点を整備することが望ましい。 東部 → 子ども用の機能 西部 → 高齢者用の機能</p>	<p>要望</p> <p>防災情報を確実に把握するために各個別家庭に防災ラジオを普及させてほしい。</p> <p>情報ボランティアの配置する仕組みを検討することが必要である 情報を取りに行かなくても地域で取得できる バイクボランティアによる機動的な要配慮者への支援が可能となる</p>	

苦小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等			
避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
<p>避難行動に係る防災教育機能を整備する</p> <p>拠点できることよりも平常時の学校で防災教育に取り組むことが重要である。</p> <p>津波3原則を学校現場で学ぶ ①宮城県のある学校における教本支援 ②防災主任の設置</p> <p>避難行動に関する知識を学習できる機能</p>	<p>防災拠点をモデルケースとして地域全体に広げる</p>	<p>タンカー、毛布で障害物リレーをする</p> <p>備蓄品は収納することを競わせる</p> <p>運動会で使える備蓄機能</p> <p>備蓄品を覚えることもできる</p> <p>防災 Cooking</p> <p>温かいもの食べたい</p> <p>食堂・調理機能のある施設</p> <p>要配慮者と交流できる機能</p>	

苫小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等

視点	避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
初動時 発災直後～ 3日	<p>町内外の受け入れ</p> <p>津波発生時、他の町内の人、車両等の受け入れに困難があり、車両等の駐車場所、人手不足、備蓄品の不足等をどのように対応するのか？ 町内会に備品を置いてほしい</p> <p>地域での受け入れは限界がある環境づくり</p>	<p>連絡体制の強化</p> <p>防災無線の確保</p> <p>防災体制強化</p> <p>「地域防災組織の活動の共有」広報で活動内容を紹介する</p>	<p>地域の情報共有</p> <p>「近隣住民と情報共有 避難所のことや防災情報 安心感を与えるコミュニケーション デマに惑わされない注意喚起</p> <p>避難者や町内の住民に対して、防災スピーカーで正しい情報の発信と防災スピーカーがある程度聞こえるようにしてほしい。放送のやり方を変えて欲しい</p>	<p>避難所に防災ラジオをおく</p>
応急対策時 4日目～ 1週間				
復旧・復興時 1週間～	<p>防災意識啓発</p> <p>「避難は徒歩で」防災意識啓発</p> <p>避難行動について適切に行うために訓練所・避難場所、方法を考える(家族、学校、外出時)</p> <p>平時の意識状況、交通量等を把握し、避難時に広い道路を利用する(緩やかな地質の道路)</p> <p>「避難所の構造を事前に周知する場」市のホームページで公開する</p> <p>「地域の要配慮者を確認する」対応を学ぶ場が必要</p> <p>「情報収集の仕方」を学ぶ</p> <p>苫小牧テレビにおいて防災講座を放送する子供向け(マンガチェック)</p>	<p>備蓄の供給</p> <p>十分な備蓄</p> <p>「避難所の適正な備蓄の確保」避難所ごとの収容人数の把握が必要</p> <p>不足分を補充</p>		

苫小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等

避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
<p>宿泊</p> <p>「防災訓練として宿泊体験」+ 炊き出し体験</p>	<p>飲食</p> <p>避難訓練と同時に備蓄品の試食をする</p> <p>缶詰とレトルト食品の試食体験会をコミセン・アイビー・プラザで開く</p>		

防災拠点の位置→					
<p>ボランティア、救助はJRで来る人もいると思うので駅周辺が行きやすく良い</p> <p>陸上の競技場の周辺 (防災拠点)</p> <p>スポーツセンター (防災拠点) 立地、活用した方が、、、</p> <p>東西の中心 (中央)、駅→中央に (防災) 拠点</p> <p>フェリー、港との連絡が良い場所 (中央) (防災拠点)</p> <p>駐車場をどう確保するか? (中央) ※</p>					
<p>3班</p> <p>苦小牧市における、避難の方向性等</p>					
視点	避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他	
<p>初動時</p> <p>発生</p> <p>3E</p> <p>・避難経路を電柱に表示してほしい</p> <p>・防災保管庫のかさ上げ費用を市で補助してほしい (2mの津波)</p>	<p>線路を超える通路を</p> <p>SNSや防災無線の活用をもっと周知した方が良いシステムは良いと思う</p>	<p>高齢化が大変進んでおり協力者がいない (高齢者を支援する機能)</p>	<p>企業との提携 (備品) 一会社に備蓄</p> <p>例えば 町内会主体の防災教室 スマホの使い方、アプリの使い方</p>	<p>地域の医療機関との連携が欲しい</p>	
<p>応急</p> <p>4日</p> <p>地震が来る水が止まる etc 正しい情報を避難者に伝える装置</p>	<p>避難所までの時間を示してほしい (いつ来るかわからない)</p> <p>リアルタイムで避難所の開錠するシステム</p>	<p>拠点、倉庫 + ヘリポート (事例から)</p>	<p>防災体制が東に偏重していないか? 西の方が高齢者多いイメージ</p>	<p>拠点+医療機関との連絡 (連携) (WEB)</p>	
<p>1週</p> <p>スマホ、アプリに頼り過ぎない情報システム (高齢者)</p>	<p>ペットを飼っている世帯に対してスペースや対応は?</p> <p>避難する場所 (スペース) が必要</p> <p>垂直避難できる建物がどれか分かる</p>	<p>冬の装備や防寒についての対策?</p> <p>備品の在庫見える化</p>	<p>自衛隊、救急、消防の駐車スペース ※</p>		
<p>復旧・復興時</p> <p>1週間～</p>					

苦小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等					
<p>3班</p>					
避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他		
<p>自分の近くの避難所が分かる情報表示</p>	<p>展望所</p> <p>備蓄倉庫を見る</p> <p>子どもが過ごせる施設</p>	<p>市民が集まって防災に関する勉強をする場 (スマホアプリ)</p>			
<p>コンビニ 小さな拠点</p>	<p>避難タワー + イベントスペース</p> <p>老朽化している公共施設 ex) 総合体育館 クーラー無し</p>				

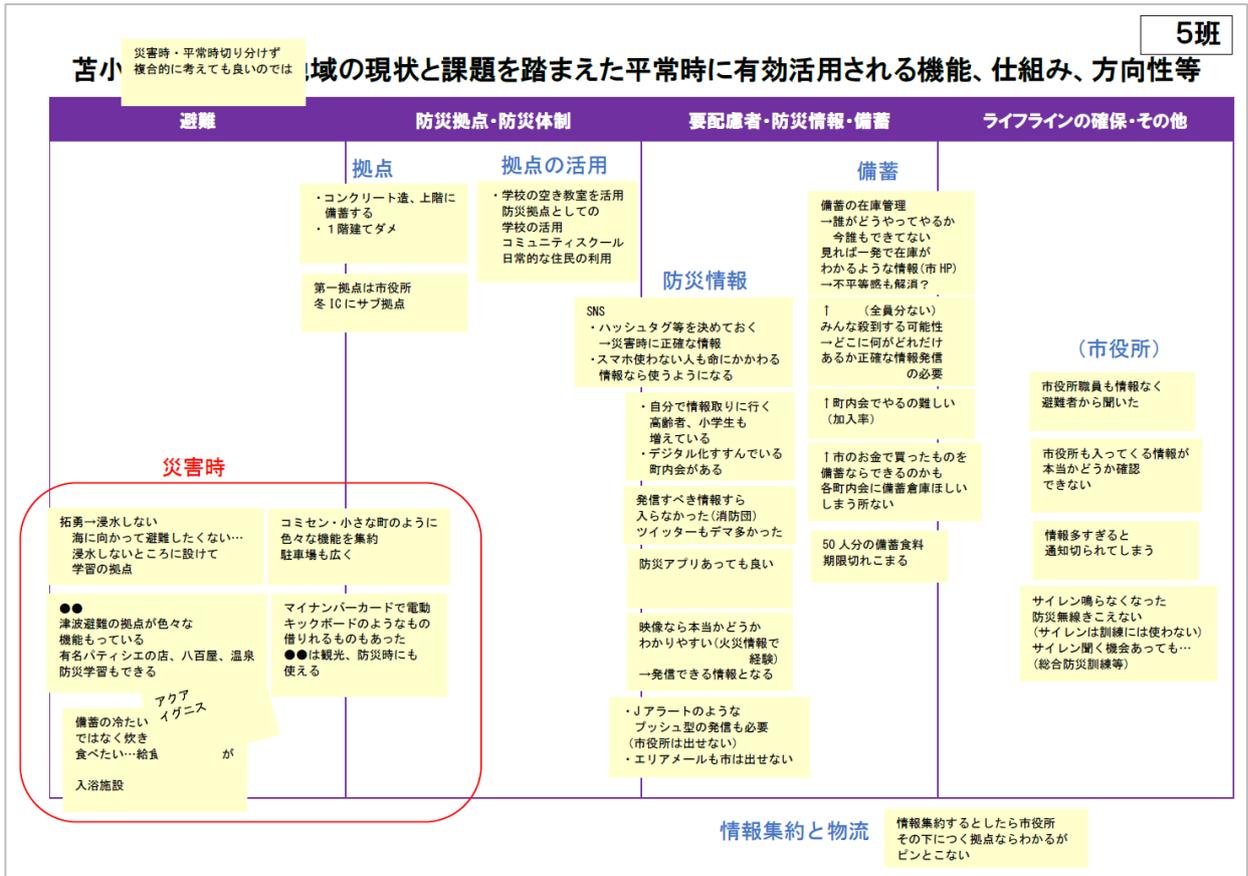
苦小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等

視点	避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
初動時 発災直後～ 3日	<p>拠点としては 小学校 ↓ 集まりやすい 教室、グラウンド 利用可能</p> <p>小さい拠点も大事 近くにあって すぐに避難できる</p>	<p>小学校の 小さい拠点は 充実させる</p> <p>防災拠点 ・駅付近 ・備蓄機能 ・地域コミュニティ ・避難施設</p> <p>物資拠点 そこから どう配分 するか考 える</p>	<p>防災拠点 情報集約拠点 司令部機能 (物資) ↓ 市役所本部?</p> <p>FM 苦小牧を活用 した防災情報提供 (防災施設内に入 れる)</p>	<p>必要な機能 ・誰でも使える ・(日常的に) 電気を使える装置 を備える</p> <p>ライフラインの確保</p> <p>山側に避難できる ルートが少ない</p>
応急対策時 4日目～ 1週間	<p>車で避難するこ とは現実的かど うか?</p> <p>車でしか避難 できない人も 考えた体制を 考える</p>	<p>広さ→市民会館 ホール 体育館 車や外飼いの ペットに対応 (立体駐車 場) 学校(グラウ ンド)(体育 館)</p> <p>物資拠点 もあると いい</p> <p>ボランテ アの受入</p> <p>物資拠点 ボランティア受入拠点</p>	<p>家庭環境によって一番困 っている事が違うと思う ので、困り感によって、 場所を分けられる広さ、 高さのある建物 (高齢者、障がい者、子 供、ペット共に、医療必 要等)</p> <p>防災情報集約拠点 →各避難所に伝達</p>	
復旧・復興時 1週間～				<p>場所は駅前</p>

苦小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等

避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
	<p>→</p> <p>正月 防災カルタ大会 など 防災に関する イベント開催</p> <p>全市的な 防災イベント</p>	<p>平時は防災 知識の普及</p> <p>世界の天災を 情報を発信す る施設</p> <p>災害時の 体験ができる 施設</p> <p>教室をいくつか 講習会に使える →災害時は 対策室</p> <p>防災カメラ 市内の川などの 情報が分かる</p> <p>カメラ映像は SNS等で 発信できるように (注意方が出たど きに)</p> <p>要配慮者の リストを集めていて 災害時の対応を整理 している</p>	<p>防災情報 防災知識体験を 発信できる場所</p> <p>防災カメラ</p>

●5班



●6班

6班

苦小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等

視点	避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
初動時 発災直後～ 3日	市として避難 場所を把握 しておく タイムリーな連絡 避難施設は 拠点化や集約は 無理なので分散化 避難所の統合に より、津波避難 として適した場所 がなくなった ・一時避難	自衛隊車両 警察・消防車両 受け入れできる敷地の 確保 拠点を整備する事で 防災意識が 高まるのでは? (避難準備の 短縮につながるかも) 防災拠点は 東 中 西 }に分散化	町内会他 地域コミュニティ を利用するしかない “FMとまこまい” 周知しては? (防災情報の 発信ツールとして) 各施設に任せる どの程度避難しているか 情報共有が大事と なる。 移動手段 ・折りたたみ自転車 ・リヤカー ・そり	停電時でも 稼働可能な 自家発電機能がある事 機械の 維持管理 拠点には ・無線 ・衛星電話 ・タブレット端末で 情報共有を可能に ガソリンは 町内会で 備わっていない
応急対策時 4日目～ 1週間		苦東地区は 浸水範囲外 →倉庫、拠点と しても良い 常に避難		
復旧・復興時 1週間～	津波避難時に 津波方向に逃げる●● がある ●●●●で連絡するなど ●●●●●●避難経路を 整理する必要がある			

2.3 第3回住民懇話会結果

(1) 実施概要

苫小牧市防災まちづくり基本構想のとりまとめにあたって、これまで議論してきた地域の課題や防災拠点に必要な機能及びそれらを踏まえて設定した防災まちづくり基本構想に示す基本理念、基本方針に係る意見交換を行った。

(2) 第3回住民懇話会の目的

- ・第2回住民懇話会で議論した防災拠点に必要な機能のとりまとめ結果の共有、意見交換
- ・防災まちづくり基本構想に示した基本理念、基本方針の共有、意見交換

(3) 日時・場所

地域住民を対象に住民懇話会を開催するため、比較的参加しやすい平日の夕方に実施した。

日時：令和5年12月22日18時30分～19時30分

場所：苫小牧市役所2階21会議室

(4) 参加者

防災まちづくり基本構想の基本理念や基本方針に係る意見を収集するため、平常時より防災活動に従事している組織を対象に実施した。

防災ボランティア、自主防災組織、消防団 合計26名

※1班あたり5,6人で意見交換を実施

(5) プログラム

No	時間	実施内容
1	18時30分	■情報提供 住民懇話会の目的、本日の流れ
2	18時35分	■情報提供 第2回住民懇話会における実施結果の共有
3	18時45分	■苫小牧市防災まちづくり基本構想（素案）（意見交換） ①第2回住民懇話会の実施結果（防災拠点に必要な機能） ②防災まちづくり基本構想に示す基本理念 ③防災まちづくり基本構想に示す基本方針
4	19時25分	■今後の進め方

(6) 実施状況



(7) 配布資料

地域住民が住民懇話会の開催趣旨、実施概要を理解して、事前準備を行った上で住民懇話会に参加できるよう事前配布用の資料も作成した。

配布した資料一覧及び資料の一部抜粋を示す。

資料区分	資料番号	資料名
事前配布	—	住民懇話会の開催概要
当日配布	資料 1	次第
	資料 2	第 3 回住民懇話会説明資料
	資料 3	第 3 回住民懇話会意見調査票
	参考資料 1	第 2 回住民懇話会実施結果
	参考資料 2	苫小牧市防災まちづくり基本構想（素案）

苫小牧市防災まちづくり基本構想

住民懇話会の概要

1. 目的

苫小牧市は、北海道の太平洋側に位置し、巨大地震や津波の他、樽前山の噴火等、様々な大規模災害の懸念があることから、地域防災力の強化を図り、防災拠点の整備等を行う防災まちづくり構想を策定するにあたって、地域のみなさまにとってより良いまちづくりを実現することを目的に住民懇話会を開催する。

2. 日時・場所

令和5年12月中旬18時30分～19時30分・苫小牧市役所2階会議室

3. 対象者

自主防災組織、防災ボランティア、消防団 約30名程度

4. 第3回住民懇話会のプログラム

- (1) 開会挨拶
- (2) 第2回住民懇話会における実施結果の共有
- (3) 苫小牧市防災まちづくり基本構想(素案)
 - ① 構想の前提、ポイントの説明
 - ② 意見交換
- (4) 今後の進め方
- (5) 閉会

5. 全体スケジュール(予定)

第1回懇話会(R5 8月3日)
 ■協議事項
 ① 目的、全体の流れ
 ② 胆振東部地震の課題と教訓
 ③ 地域の現況・課題(火山、洪水、土砂災害、地震・津波)
 ④ 今後の検討の進め方

第2回懇話会(R5 10月10日)
 ■協議事項
 ① 課題のとりまとめ結果
 ② 取り組むべき方向性
 ③ 今後の進め方

第3回懇話会(R5 12月上～中旬)
 ■協議事項
 ① 取り組むべき方向性の結果
 ② 防災まちづくり基本構想(素案)
 ③ 今後の進め方

第4回懇話会(R6 1月下旬)
 ■協議事項
 ① 素案に対する意見と対応方針
 ② 防災まちづくり基本構想(案)(最終確認)
 ③ ハザードマップの見方
 ④ スケジュール

意見交換でやること!



■地域がより安全で安心なまちとなるように基本構想の素案に対する意見を出そう!!

・第1回及び第2回懇話会で協議した課題、取り組むべき方向性が適切に基本構想に反映されているか。

・第1回及び第2回懇話会の協議結果を踏まえた基本理念及び基本方針が設定されているか。

※今回は、これまでと異なり市が考えたことに対する意見をもらう機会となるため、特別な準備は不要

以下、基本理念と基本方針という言葉覚えて来てください。



苦小牧市防災まちづくり基本構想

日時：令和5年12月22日（金）
18時30分～19時30分
場所：苦小牧市役所2階21会議室

第3回住民懇話会

次 第

1. 目的、本日の流れ
2. 住民懇話会における実施結果
3. 苦小牧市防災まちづくり基本構想（素案）
 - （1）構想の前提、ポイントの説明
 - （2）意見交換
4. 今後の進め方
5. 閉会

配布資料

資料1	次第
資料2	第3回住民懇話会説明資料
資料3	意見調査票
参考資料1	第2回住民懇話会における実施結果
参考資料2	苦小牧市防災まちづくり基本構想（素案）

(1) 構想の前提、ポイント

■ 構想の構成

第1回・第2回住民懇話会で主に議題とした内容

1章 防災まちづくり基本構想の目的と対象区域

2章 苫小牧市の概要
3章 苫小牧市の現状
4章 上位・関連計画

5章 市民意見の把握
6章 課題の抽出

7章 基本理念及び基本方針

本日(第3回住民懇話会)の主な協議事項!!

8章 今後の予定

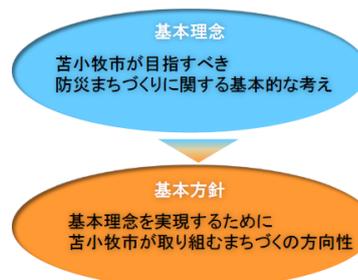
9章 参考資料(住民アンケート、住民懇話会)

14

(2) 意見交換

説明した以下の点について
各班で発表者を決めて、
ご質問やご意見をお願いします

- ・第2回住民懇話会の結果
- ・基本理念
- ・基本方針



29

●第3回住民懇話会意見調査票

資料3

苫小牧市防災まちづくり基本構想 第3回住民懇話会意見調査票

* 以下の設問について、あてはまるものの記号に○印をつけてください。
* いただいた意見については、内容精査の上、苫小牧市防災まちづくり基本構想に反映させていただきます。**12月27日(水)まで**に下記に示す事務局まで提出をお願いします。

(任意)所属・氏名()

問1: 第2回住民懇話会の結果について、ご自身の意見が適切に反映されているか考えをお聞かせください。(参考資料2 P.28~30 参照)

〈考え・理由〉	
---------	--

問2: 苫小牧市防災まちづくり基本構想の基本理念・基本方針について、苫小牧市の現状、これまで懇話会の意見が適切に反映されているか考えをお聞かせください。
(参考資料2 P.37~40 参照)

〈考え・理由〉	
---------	--

問3: その他、苫小牧市防災まちづくり基本構想について、ご意見、ご感想などがありましたらお書きください。

〈意見、感想〉	
---------	--

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

■提出先

苫小牧市危機管理室 防災まちづくり基本構想 事務局 担当: 山元

tel: 0144-32-6280 fax: 0144-33-0474

mail: kikikanri@city.tomakomai.hokkaido.jp

オンラインでも回答可能です。QRコードはこちら



●第2回住民懇話会実施結果

第2回住民懇話会における実施結果

1班 参考資料1

苫小牧市における地域の現状と課題を踏まえた平常時に有効活用される機能、仕組み、方向性等

視点	避難	防災拠点・防災体制	要配慮者・防災情報・備蓄	ライフラインの確保・その他
<p>初動時 発災直後～ 3日</p>	<p>避難所の容量が不安である、避難時間も含めて適切な避難所を整備することを検討してほしい。</p> <p>要望</p>	<p>観光客にも分かりやすい場所になると土地勘のない人でも避難しやすくなるため、ランドマーク機能があると良い。(津波が支援する際の目印にもなる)</p>	<p>小さな拠点でどうするのか命を守ることを考える</p> <p>要望</p> <p>防災情報を確実に把握するために各個別家庭に防災ラジオを普及させてほしい。</p>	
<p>応急対策時 4日目～ 1週間</p>	<p>拠点に避難するまでの誘導看板や足跡等を合わせて整備することで避難しやすくなる</p> <p>ボランティアの拠点機能として、雨・雪・寒さ・暑さをしのげる場所 救護に必要な機能</p>	<p>地域別に機能を変えて複数の拠点を整備することが望ましい。 東部 → 子ども用の機能 西部 → 高齢者用の機能</p>	<p>情報ボランティアの配置する仕組みを検討することが必要である 情報を取りに行かなくても地域で取得できる バイクボランティアによる機動的な要配慮者への支援が可能となる</p>	
<p>復旧・復興時 1週間～</p>				

● 苫小牧市防災まちづくり基本構想（素案）

参考資料 2

苫小牧市防災まちづくり基本構想
（素案）

令和 5 年（2023 年）12 月
苫小牧市

(8) 意見交換結果のとりまとめ

各班で防災まちづくり基本構想に係る意見交換を実施後に、代表者が意見交換の内容を発表した。各班の発表概要を整理した。また、資料3意見調査票により、第3回懇話会実施後に収集した意見も併せて整理した。

No	班	第3回懇話会における意見
1	1	基本方針1の総合体育館を整備について、駅前を対象エリアに含めると浸水深が1m-3mの地域となるため、防災拠点の強化につながるのか疑問がある。
2	1	基本方針4地域防災力の向上について、学校で津波避難3原則を勉強させることが長期的には苫小牧を守っていく世代の育成につながるため、教育委員会と危機管理室が連携することが必要である。
3	1	基本方針3,4について、市内・市外における災害ボランティアの受入が記載されているが、地域で平常時から活動している「ボランティアの活用」に言及してはどうか。
4	2	基本方針1防災拠点の機能強化について、p.37では救援・救護対策とあるが、p.38ではあまり記述されていないため、救援・救護対策を詳述する必要がある。
5	2	基本方針4地域防災力の向上について、自主防災組織の周知活動があまりされておらず、人手不足であるため、周知活動をしていただき、1班であがった意見と同じになるが、自主防災組織の活用につなげてほしい。
6	2	減災というワードが基本方針にはいないので、防災というワードと区分してキーワードとして追加すると良い基本方針になると考えている。
7	3	苫小牧市の特徴として、大きな企業がり、これから進出してくる企業も想定されるため、企業間連携について、もう少し言及する必要がある。
8	3	他の土地から新規に苫小牧市に入ってくる人もいるため、これからの防災活動を周知する取り組みを実施してほしい。
9	4	4班では基本構想に係る意見はでなかった。基本構想に示される防災拠点の考え方等を確認した段階である。
10	5	基本理念はこれまで議論してきたことが網羅されているという意見であった。
11	5	防災拠点については、東地区から交通網を含めて箱物の拠点づくりが必要という意見であった。
12	6	防災拠点の場所については、まだ考える余地があると思う。その他の基本構想の内容については、実施できれば素晴らしい内容になると思う。

No	班	第3回懇話会後の追加意見
13	-	総合体育館の拠点化について、災害直後から多くの支援物資を運びこまなければならない、長期にわたって災害拠点として活動していく場所であることから浸水地域にあることは課題が多いと考える。交通アクセス面、人や物資を運ぶ上での大量の車両駐車スペース等を考えると緑ヶ丘講演を整備する方針が良いと考える。現状の備蓄倉庫や救援物資総合センターの多くが浸水地域となっているため、分散が必要である。
14	-	基本方針2 人的ネットワーク体制の構築について、食事をつくるボランティアを飲食店で働く調理人から募集することを提案した。イタリアではプロの料理人がボランティア登録し、メニューを一元化して考えて調理するので、同じメニューが続かない。
15	-	防災教育や避難行動の観点から学校を防災教育の中心として考えることが急務である。学校は未来の防災を担うこどもが集う場所であり、地域住民も集える場所である。そこで平時から防災を考える拠点とすることが必要である。
16	-	基本方針4について、防災教育は住民の思いだけでは体系的に動けないため、学校と地域が連携した防災教育カリキュラムを学校独自で進めることが必要である。 (教育委員会と危機管理室の連携)
17	-	課題については第2回懇話会の内容が十分に反映されていると思う。
18	-	基本理念・基本方針について、これまでの懇話会の内容が適切に反映されていると思う。
19	-	基本構想の内容は、豊富で期待できるものとなっているが、どの程度具現化するか楽しみである。
20	-	防災拠点を総合体育館として、駅周辺の整備する場合、浸水域となるため、かさ上げが必要と考えられる。
21	-	苫小牧市は東西に長くほとんど海岸線であるため、2~3か所の避難タワー等が必要と思われる。
22	-	①P8 表の10.11について、被害想定項目が同じで違いがわからない。10は削除してよいのでは。 ②P12 本部機能の表について、「消防本部(新開町)」の方が場所がわかりやすい ③P12 物資集積拠点について、P13で救援物資総合センターが記載されているが、P12の文言に流通備蓄や支援物資の記載がないので入れるべき ④P14 ライフラインについて、「浄水場排水池及びポンプ場」とあるがポンプ場からの運搬は実際ないと思われる一方、ペットボトル水を運搬することも考えられることから「浄水場等」に変えたほうがよい。 ⑤P14 ライフラインについて、「耐震性貯留施設(緊急貯水槽)」とあるが「耐震性貯留施設ではなく緊急貯水槽と呼ばれるため「緊急貯水槽(耐震性貯留施設)」に変更すべき。また、2段落目の冒頭も「緊急貯水槽」が望ましい。

2.4 第4回住民懇話会結果

(1) 実施概要

第3回住民懇話会やパブリックコメント等におけるご意見を踏まえて修正した苫小牧市防災まちづくり基本構想（案）の確認を行った。また、平常時より防災活動に従事している組織の参加者が中心となるため、地域への防災意識の啓発を目的に津波ハザードマップの見方及び能登半島地震の状況に係る情報提供を行った。

(2) 第4回住民懇話会の目的

- ・ 防災まちづくり基本構想（案）のとりまとめ結果の共有、意見交換
- ・ 津波ハザードマップの見方等防災意識の啓発

(3) 日時・場所

地域住民を対象に住民懇話会を開催するため、比較的参加しやすい平日の夕方に実施した。

日時：令和6年2月20日18時30分～20時00分

場所：苫小牧市役所2階21会議室

(4) 参加者

防災まちづくり基本構想の基本理念や基本方針に係る意見を収集するため、平常時より防災活動に従事している組織を対象に実施した。

防災ボランティア、自主防災組織、消防団 合計22名

※1班あたり5,6人で意見交換を実施

(5) プログラム

No	時間	実施内容
1	18時30分	■開会 ■情報提供 住民懇話会の目的、本日の流れ
2	18時35分	■苫小牧市防災まちづくり基本構想（案）（意見交換） ・ 第3回住民懇話会における実施結果の共有 ・ パブリックコメントにおけるご意見と対応の共有 ■苫小牧市における今後の取り組み
3	19時00分	■情報提供 ①苫小牧市津波ハザードマップの見方 ②能登半島地震における状況
4	19時55分	■閉会挨拶

(6) 実施状況



(7) 配布資料

地域住民が住民懇話会の開催趣旨、実施概要を理解して、事前準備を行った上で住民懇話会に参加できるよう事前配布用の資料も作成した。

配布した資料一覧及び資料の一部抜粋を示す。

資料区分	資料番号	資料名
事前配布	—	住民懇話会の開催概要
当日配布	資料 1	次第
	資料 2	第 4 回住民懇話会説明資料
	参考資料 1	第 3 回住民懇話会における意見と対応
	参考資料 2	苦小牧市防災まちづくり基本構想（案）

苫小牧市防災まちづくり基本構想

住民懇話会の概要

1. 目的

苫小牧市は、北海道の太平洋側に位置し、巨大地震や津波の他、樽前山の噴火等、様々な大規模災害の懸念があることから、地域防災力の強化を図り、防災拠点の整備等を行う防災まちづくり構想を策定するにあたって、地域のみなさまにとってより良いまちづくりを実現することを目的に住民懇話会を開催する。

2. 日時・場所

令和6年2月20日（火）18時30分～20時00分・苫小牧市役所2階会議室

3. 対象者

自主防災組織、防災ボランティア、消防団 約30名程度

4. 第4回住民懇話会のプログラム

- (1) 開会
- (2) 第3回住民懇話会における実施結果の共有
- (3) 苫小牧市防災まちづくり基本構想（案）の承認
- (4) 住民懇話会を踏まえた市の取り組み
- (5) 津波ハザードマップの見方・能登半島地震の状況
- (6) 閉会挨拶

苫小牧市防災まちづくり基本構想

日時：令和6年2月20日（火）
18時30分～20時00分
場所：苫小牧市役所2階21会議室

第4回住民懇話会

次 第

1. 開会
2. 目的、本日の流れ
3. 苫小牧市防災まちづくり基本構想（案）
4. 住民懇話会を踏まえた市の取り組み
5. 津波ハザードマップの見方・能登半島地震の状況
6. 閉会挨拶

配布資料

- 資料1 次第
資料2 第4回住民懇話会説明資料
参考資料1 第3回住民懇話会における意見と対応整理
参考資料2 苫小牧市防災まちづくり基本構想（案）

第3回住民懇話会の概要

■ 実施概要

苫小牧市防災まちづくり基本構想のとりまとめにあたって、これまで議論してきた地域の課題や防災拠点に必要な機能及びそれらを踏まえて設定した防災まちづくり基本構想に示す基本理念、基本方針に係る意見交換を行った。

■ 第3回住民懇話会の目的

- ・第2回住民懇話会で議論した防災拠点に必要な機能のとりまとめ結果の共有、意見交換
- ・防災まちづくり基本構想に示した基本理念、基本方針の共有、意見交換

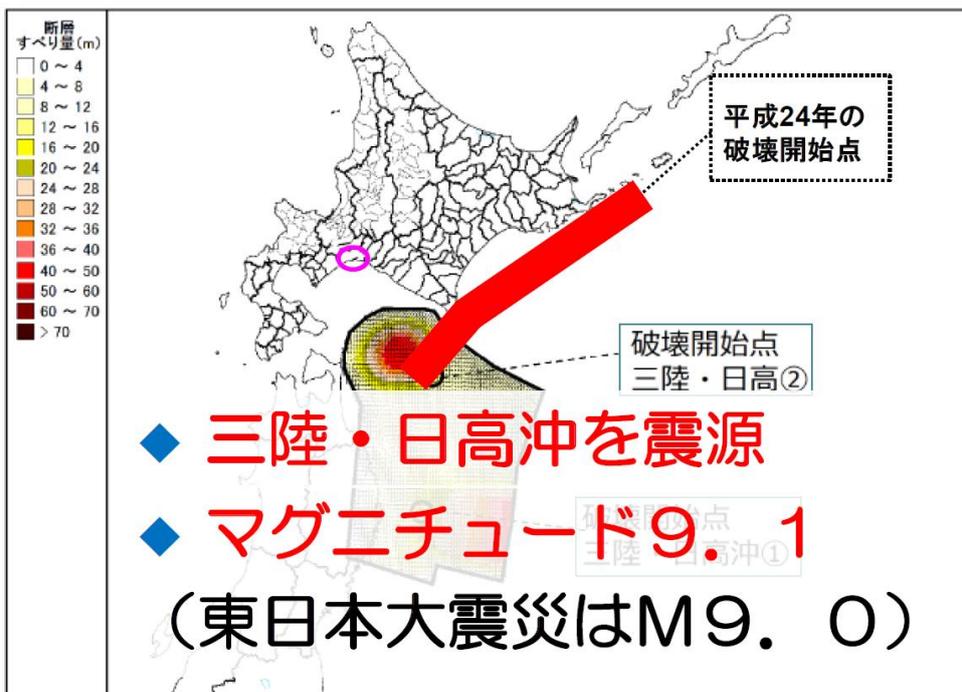
■ 日時・場所

日時：令和5年12月22日18時30分～19時30分
場所：苫小牧市役所2階21会議室

■ 意見交換の状況



(1) 新たな津波浸水想定について



●第3回住民懇話会における意見と対応

参考資料1

苦小牧市防災まちづくり基本構想（素案）に対する意見と対応

No	班	第3回懇話会における意見	対応
1	1	基本方針1の総合体育館を整備について、駅前を対象エリアに含めると浸水深が1m-3mの地域となるため、防災拠点の強化につながるのか疑問がある。	津波以外への災害の対応、東西へのアクセス性、平常時の活用性、駅前のにぎわい創出の観点を踏まえて、基本構想の段階では場所を中央IC周辺だけに限定しない方針とする。
2	1	基本方針4地域防災力の向上について、学校で津波避難3原則を勉強させることが長期的には苦小牧を守っていく世代の育成につながるため、教育委員会と危機管理室が連携することが必要である。	方針4に教育現場との連携について追記した。
3	1	基本方針3,4について、市内・市外における災害ボランティアの受入が記載されているが、地域で平常時から活動している「ボランティアの活用」に言及してはどうか。	方針3に地域ボランティアの活用、方針4に自主防災組織に限定せずに組織の育成を記載した。
4	2	基本方針1防災拠点の機能強化について、p.37では救援・救護対策とあるが、p.38ではあまり記述されていないため、救援・救護対策を詳述する必要がある。	方針1の救援・救護対策を具体化した。
5	2	基本方針4地域防災力の向上について、自主防災組織の周知活動があまりされておらず、人手不足であるため、周知活動をしていただき、1班であがった意見と同じになるが、自主防災組織の活用につなげてほしい。	自主防災組織の活動報告は、本計画とは別途周知活動を強化する。本構想には、方針3に地域ボランティアの活用を記載した。
6	3	減災というワードが基本方針にはいっていないので、防災というワードと区分してキーワードとして追加すると良い基本方針になると考えている。	方針4に地域防災力の向上が減災につながるという観点で減災というキーワードを追加した。
7	3	苦小牧市の特徴として、大きな企業があり、これから進出してくる企業も想定されるため、企業間連携について、もう少し言及する必要がある。	方針4に地域防災力の向上に企業間連携の項目を追加した。
8	3	他の土地から新規に苦小牧市に入ってくる人もいるため、これからの防災活動を周知する取り組みを実施してほしい。	頻発する大規模な自然災害への備えと啓発のため、苦小牧市総合防災訓練を隔年で実施、各種ハザードマップをHPに掲載、住民説明会を実施している。

苫小牧市防災まちづくり基本構想
（案）

令和 6 年（2024 年）1 月

苫小牧市

(8) 防災まちづくり基本構想（案）の確認

第3回住民懇話会における意見と対応の資料説明後に、防災まちづくり基本構想（案）に係る意見の確認を行った。

指摘と回答・対応を以下に示す。

No	指摘	回答・対応
1	方針1について、説明では基本構想の段階では拠点候補地域を限定しない方針とのことであるが、総合体育館を整備と限定的な記載となっているため、適切な表現に修正すべきであると考えます。	新しい防災拠点の整備を検討していること及びその候補が建て替え予定である総合体育館であることを適切に表現した文章に修正する。
2	避難タワー等が必要と思われるという意見についても防災まちづくり基本構想（案）に反映すべきであると考えます。	方針3に逃げ遅れた人に対する滞留スペース、避難所等の避難拠点機能を追記する。

3. パブリックコメント

3.1 実施期間

令和6年1月18日～2月16日（30日間）

3.2 実施内容

「防災まちづくり基本構想（案）」に係る内容

3.3 実施結果

ご意見1件

消防団の役割分担、北海道防災マスターや防災士の有資格者の活用、防災ボランティアの災害ボランティアセンターや本部への組み込みなど、人的リソースの活用についても考慮する必要がある。

3.4 意見に対する対応

基本方針4において、自主防災組織の育成等人的リソースの活用に係る内容を設定しているため、案と意見との趣旨が同様と回答。

4. 関連計画

4.1 苫小牧都市再生コンセプトプラン（令和3年3月策定）

都市再生コンセプトプランでは、苫小牧市のダブルポートシティという特性を生かした各種成長戦略の方向性が示されている。都市再生のキーワードにWalk、Water、Workを位置づけ、交流人口の増加を目標に定めている。

都市再生コンセプトプランの構成要素
○ウォーカブルなまちづくり 多機能コミュニティ拠点やワーケーション、ストリート整備、食と文化のまちづくり
○ウォーターフロントの魅力発信 ふ頭エリア・漁港エリアにおける新しい空間づくり
○次世代産業の展開 新産業の振興、MICE誘致、MaaSによる公共交通ネットワークの維持・強化
○人材育成・多文化共生 国際交流の推進、人材活用・育成による次世代産業の創出

4.2 苫小牧駅周辺ビジョン（令和5年3月策定）

駅周辺のエリアコンセプトを『創造的学びと暮らしが出会う街』と定め、ウォーカブル空間の創出やエリアマネジメント、防災強靱化等の目標を設定している。

目指す姿「8つの目標」
ウォーカブル、エリアマネジメント、新たな産業振興、ゼロカーボン、スマートシティ、国際都市、学び・人材育成、防災強靱化
苫小牧駅周辺ビジョン
○防災強靱化 ・安全な駅前避難場所の整備、空き家解消などにより、災害や環境変化などに対する高い対応力と回復力を持った強靱で持続可能なまちを目指す

4.3 苫小牧市公共施設等総合管理計画（令和5年3月改訂）

本計画は公共施設等の全体の状況を把握するとともに、長期的な視点をもって、市民と行政が施設に関する課題を共有し、更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行うための方針を示す。施設の統廃合や集約化、および計画的な維持管理による長寿命化を主な方針として位置付けている。

公共施設等の管理における基本的な方針
○保有量の適正化 ・ 公共施設等の総量抑制、施設の統廃合や集約化、複合化の推進
○運営管理の適正化 ・ 利用状況や経営コスト等を勘案した適正な水準でのサービスの提供 ・ 民間活力導入の検討、適切な整備手法や施設規模の設定
○長寿命化・安全確保の推進 ・ 公共施設等の長寿命化の推進
施設類型ごとの管理に関する基本的な方針
○スポーツ施設 ・ 人口規模を踏まえて適正な量を維持 ・ 老朽化が進む総合体育館において、部分的な大規模改修の計画的な実施、施設の長寿命化

4.4 苫小牧市スポーツ施設整備計画（令和3年3月策定）

市の財政状況や人口動態、利用状況等を長期的な視点から見据え、維持管理及び更新等に係る総合的なコストを縮減するとともに、予算の平準化を図るため、個別施設の現況を評価し、方針を設定している。

個別施設計画
○総合体育館 ・ 令和10年度までは不具合箇所を必要に応じて整備、令和11年以降、解体・再整備の方針を定める ・ 建設地は市内中心部で検討し、胆振日高地方の中核的施設として建替え